平成２１年度

大学院生による授業評価結果報告書
（後期分）

鳴門教育大学　大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
6	現代教育課題総合	30634000	現代教育人間論	太田　直也，近森　憲助，広瀬　綾子
7	臨床心理士養成	30445000	臨床心理面接研究Ⅰ	山下　一夫，小坂　浩嗣，佐藤　亨
8	特別支援教育	31151000	特別支援教育コーディネーター実践論	井上　とも子
9	言語系	32145000	日本古典語演習	原　卓志
10	言語系	32147000	現代日本語演習	茂木　俊伸
11	言語系	32149000	日本文学演習Ⅰ	野口　哲也
12	言語系	32160000	日本語文法演習	永田　良太
13	言語系	32162000	日本語語彙論	永田　良太
14	言語系	32142000	日本語Ⅲ	永田　良太
15	言語系	32217000	英米文化研究Ⅲ（言語文化研究）	杉浦　裕子
16	言語系	32219000	英米文学応用演習Ⅰ	前田　一平
17	言語系	32225000	小学校英語教育演習	ｼﾞｪﾗｰﾄﾞ ﾏｰｼｪｿ
18	社会系	33158100	歴史学研究Ⅰ	大石　雅章
19	社会系	33158400	歴史学演習Ⅱ	町田　哲
20	社会系	33158600	歴史学演習Ⅲ	原田　昌博
21	自然系	34127000	幾何学研究	松岡　隆
22	自然系	34128000	幾何学演習	松岡　隆
23	自然系	34129000	解析学研究	成川　公昭
24	自然系	34130000	解析学演習	成川　公昭
25	自然系	34219000	無機化学特論	今倉　康宏，早藤　幸隆
26	自然系	34224000	細胞生物学特論	米澤　義彦，佐藤　勝幸

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
27	自然系	34232000	地学実験法特論	小澤　大成，村田　守，西村　宏，香西　武
28	芸術系	35114000	歌唱表現演習Ａ	頃安　利秀
29	芸術系	35114000	歌唱表現演習	草下　實
30	芸術系	35127000	室内楽（器楽）	森　正，山根　秀憲
31	芸術系	35122000	ソルフェージュ研究	山田　啓明
32	芸術系	35132000	作曲法基礎演習	松岡　貴史
33	芸術系	35212000	油画制作演習	鈴木　久人
34	芸術系	35213000	平面造形演習	西田　威汎
35	芸術系	35215000	彫刻制作研究	長岡　強
36	芸術系	35218000	デザイン制作研究	松島　正矩
37	芸術系	35220000	映像デザイン演習	内藤　隆
38	芸術系	35224000	総合造形研究	内藤　隆，野崎　窮
39	芸術系	35228000	芸術学演習	小川　勝
40	生活・健康系	36126000	スポーツ・トレーニング演習	南　隆尚
41	生活・健康系	36132000	健康科学演習	廣瀬　政雄
42	生活・健康系	36230000	コンピュータ科学演習	宮本　賢治
43	生活・健康系	36228000	ディジタル制御研究	菊地　章
44	生活・健康系	36225000	画像情報処理研究	伊藤　陽介
45	生活・健康系	36226000	プログラミング演習	林　秀彦
46	生活・健康系	36229000	情報応用演習	曽根　直人
47	生活・健康系	36212000	情報技術研究	菊地　章

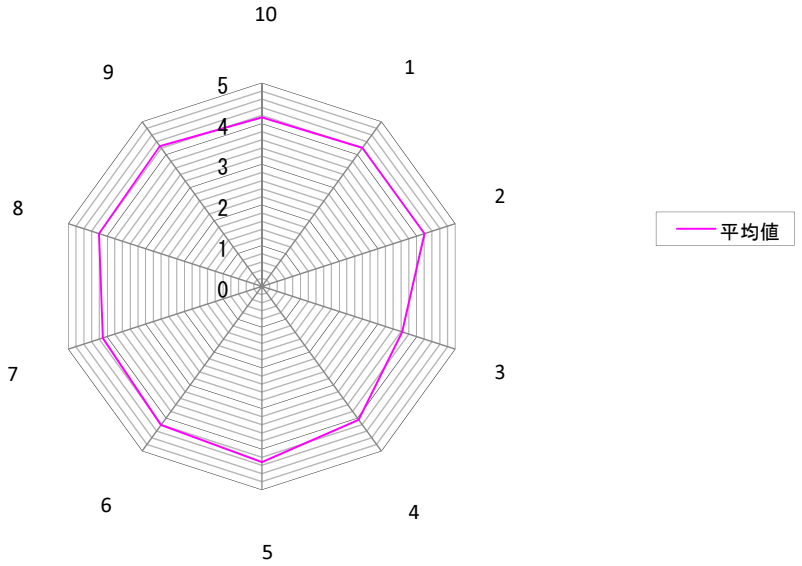
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
48	生活・健康系	36316000	衣生活学演習	福井　典代
49	生活・健康系	36318000	食生活学演習	西川　和孝，前田　英雄
50	国際教育協力	37119000	実践英語演習Ⅰ（活用英語）	兼重　昇，ｼﾞｪﾗｰﾄﾞ ﾏｰｼｪｿ，小澤　大成
51	国際教育協力	37120000	実践英語演習Ⅱ（現地活用英語）	兼重　昇，ｼﾞｪﾗｰﾄﾞ ﾏｰｼｪｿ，石村　雅雄
52	人間形成	30114000	教育哲学演習	木内　陽一
53	人間形成	30115000	教育認知心理学演習	皆川　直凡
54	人間形成	30118000	比較教育社会学演習	伴　恒信
55	現代教育課題総合	30636000	総合学習カリキュラム開発演習	村川　雅弘
56	現代教育課題総合	30648100	環境教育特論Ⅰ（教材開発）	近森　憲助，西村　宏
57	臨床心理士養成	30427000	臨床心理学演習	今田　雄三，葛西　真記子，山下　一夫， 吉井　健治，久米　禎子
58	臨床心理士養成	30447000	学校精神保健学演習	今田　雄三
59	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	葛西　真記子，佐藤　亨
60	特別支援教育	31163000	特別支援教育指導特論演習	大谷　博俊
61	特別支援教育	31165000	特別支援教育臨床支援技法演習	高原　光恵
62	特別支援教育	31169000	発達障害児支援医学演習	津田　芳見
63	特別支援教育	31152000	社会資源開発運用・連携論	井上　とも子
64	言語系	32174000	国語科教育学演習	村井　万里子
65	言語系	32176000	国語科授業演習	幾田　伸司
66	言語系	32180000	国語科教材開発演習	余郷　裕次
67	言語系	32279000	英語科教育演習Ⅰ	伊東　治己
68	言語系	32280000	英語科教育演習Ⅱ	山森　直人

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
69	社会系	33177000	現代の諸課題と社会認識教育	小西　正雄
70	社会系	33173000	社会科授業研究	梅津　正美
71	社会系	33178000	社会科教材開発演習Ⅰ（地理領域）	伊藤　直之
72	社会系	33180000	社会科教材開発演習Ⅲ（公民領域）	西村　公孝
73	自然系	34173000	数学科教育学演習	齋藤　昇, 秋田　美代
74	自然系	34176000	数学科教材開発演習	齋藤　昇, 秋田　美代
75	芸術系	35173000	音楽科授業研究	西園　芳信
76	生活・健康系	36272000	技術科教育演習	尾崎　士郎
77	生活・健康系	36376000	家庭科授業・教材開発研究	前田　英雄, 福井　典代
78	広領域コア科目	30041000	学力形成と授業改善	秋田　美代, 茂木　俊伸
79	広領域コア科目	30042000	子どもの規範意識の形成と授業経営	伴　恒信, 曽根　直人
80	広領域コア科目	30043000	現代社会と情報・思考・コミュニケーション	原　卓志, 兼重　昇
81	広領域コア科目	30044000	環境科学と人間教育－地域からの省察－	西村　宏, 近森　憲助
82	広領域コア科目	30045000	グローバル時代の文化，人間そして教育	小西　正雄, 太田　直也
83	広領域コア科目	30046000	教師のための声とからだとことば	余郷　裕次, 頃安　利秀, 綿引　勝美
84	広領域コア科目	30047000	学校危機管理研究	大西　宏, 阪根　健二
85		30212000	学級学校経営演習Ⅰ	久我　直人

結果報告書

授業科目名　現代教育人間論
評価実施日　平成22年2月4日
担当教員名　近森　憲助，広瀬　綾子，太田　直也　　回答者数　19　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	7	4				4.2
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	7	4				4.2
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3	10	1			3.6
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	6	6				4.1
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	9	7	3				4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7	9	3				4.2
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7	7	5				4.1
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	9	3				4.2
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	6	4				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	6	2	2			4.2



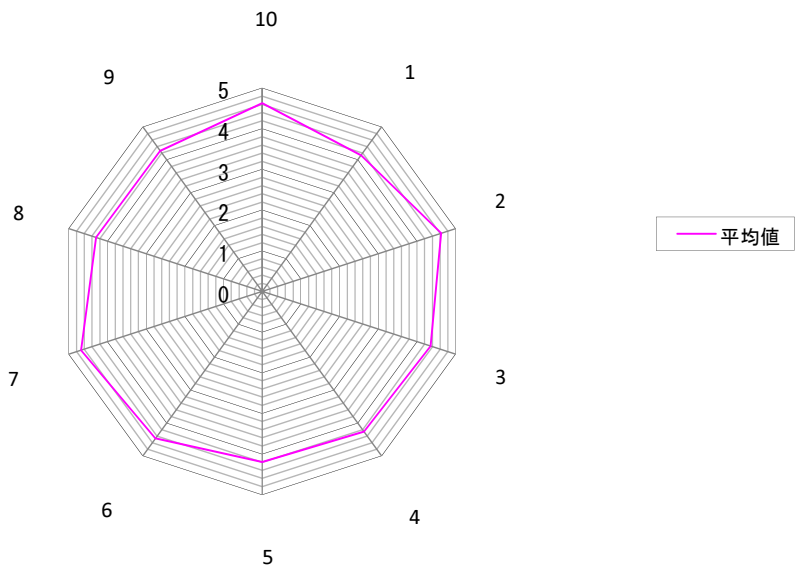
教員のコメント

授業担当者たちは綿密に計画を練って授業を展開した。総合評価において、あまり主体的・積極的に取り組まなかった受講生以外からは、ほぼ良好な評価を得ることができた。一点だけ記しておきたいのは、「教師の実践力の育成につながる内容であった。」の項目についてである。授業の際に受講生たちには伝えたが、本授業はその名が示すとおり、短期的な「実践力」を念頭に置くものではなく、人間と教育を考えるものであり、浅薄な「実践力」に焦点をあててはいなかった。それゆえの評価の低さであろうが、受講生たちには改めて深遠な思考のできる教師を目指すよう望みたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接研究Ⅰ
評価実施日　平成22年2月9日
担当教員名　山下　一夫，小坂　浩嗣，佐藤　亨　　回答者数　51　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	27	7	1			4.1
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	34	15	2				4.6
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	28	14	8	1			4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	21	24	3	1	1	1	4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	19	25	5	2			4.2
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	30	16	4	1			4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	38	10	3				4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	22	22	7				4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	23	20	7	1			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	36	12	2	1			4.6



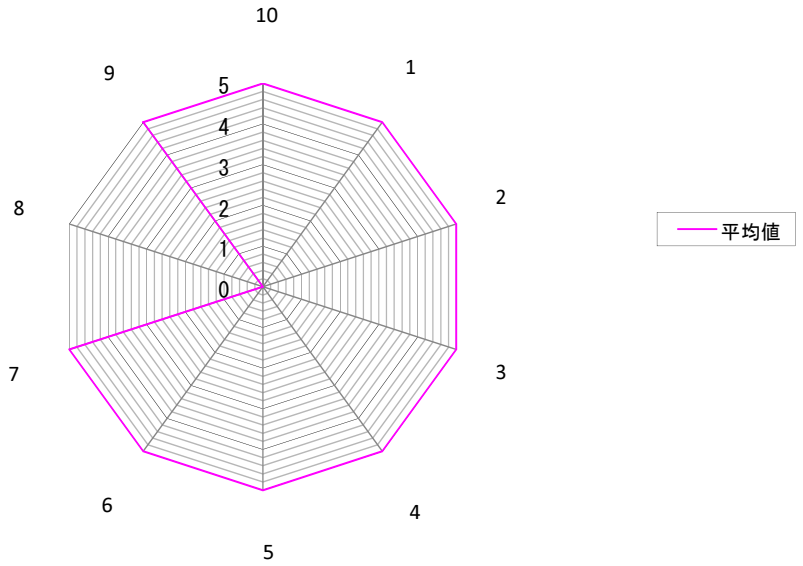
教員のコメント

51人と相対的に多人数の授業ながら、(10)総合評価が4．6と非常に高い値である。また、(2)専門的知識を深めるのに役立つが4．6、(3)教師の実践力育成につながるが4．4と、教育内容についても非常に高い評価を得た。
この授業で特に反省すべき点はないが、このアンケート調査の自由記述欄の記載量が全体的に少ないので、回答時間をもっと長くとれば良かったと反省している。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育コーディネーター実践論
評価実施日　平成22年3月1日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。						3	
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



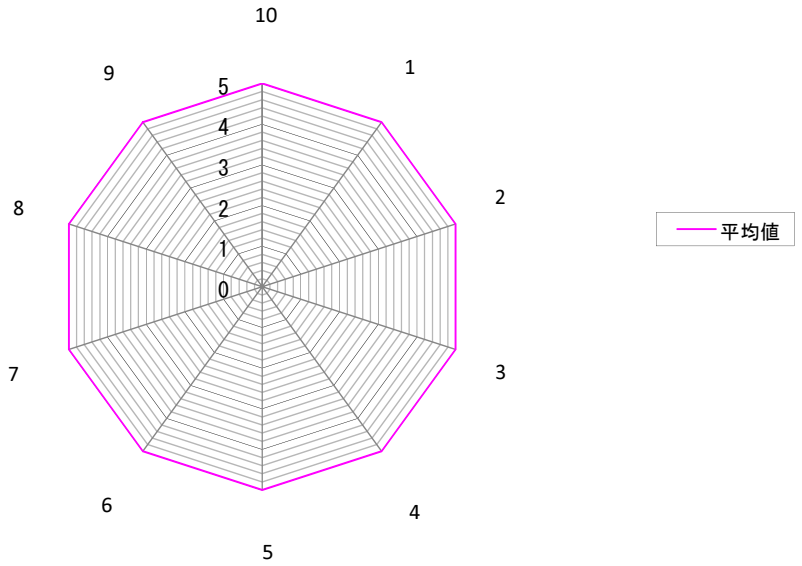
教員のコメント

この授業は、発達障害幼児の就学前指導実践を通して進めているため、板書や視聴覚機器を授業者自身は使用して進めていない。しかし、指導の分析のためにVTR録画を毎指導実践時に行っており、指導内容、方法等の振り返りに活用している。指導実践の前後に受講生にはコンサルテーションを行い、その中で指導方法等に関する理論を含め院生指導を行ってきた。この授業で、指導計画立案から教育実践まで、教育的実践力を向上させることができるため、今後も継続して行っていきたいと考える。

結果報告書

授業科目名　日本古典語演習
評価実施日　平成22年2月22日
担当教員名　原　卓志　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



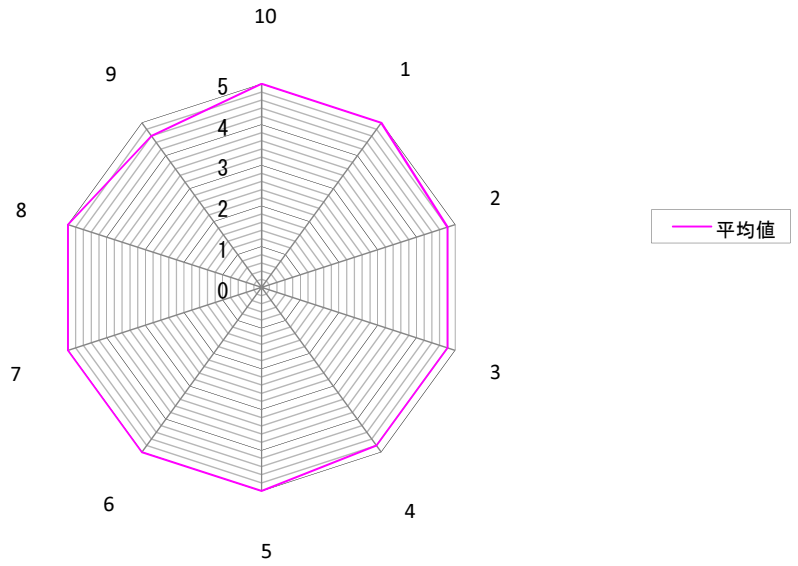
教員のコメント

受講生6人という少人数で進められた授業であった。
授業は、古写本の写真を資料として、くずし字と格闘しながら古典を読解するという、古色蒼然としたスタイルで続けたが、受講生の明るく前向きな受講態度に支えられて、和気藹々とした雰囲気の中、充実した時間を過ごすことができた。この度の授業評価の点数は、多分に御祝儀的なものである。むしろ、この評価点を受講生にあたえたいという気持ちにもなる。
受講生から寄せられたコメントは、「楽しい雰囲気の中で、教室が一体だった。優しく丁寧に教えていただき、今までには感じなかった古典の楽しさを感じることができた」「はじめは全く読めなかったが、後半、少しずつ読めるようになった。『成長できていることを知る喜び』がこの授業の良かったことだ」「古典に親しむことができた。また、高度な専門的知識を身に付けることができ、非常に良かった」「言葉の意味だけでなく、発音や時代背景についても詳しく教えていただき、とてもためになりました」など、好意的なものであった。

結果報告書

授業科目名　現代日本語演習
評価実施日　平成22年2月16日
担当教員名　茂木　俊伸　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



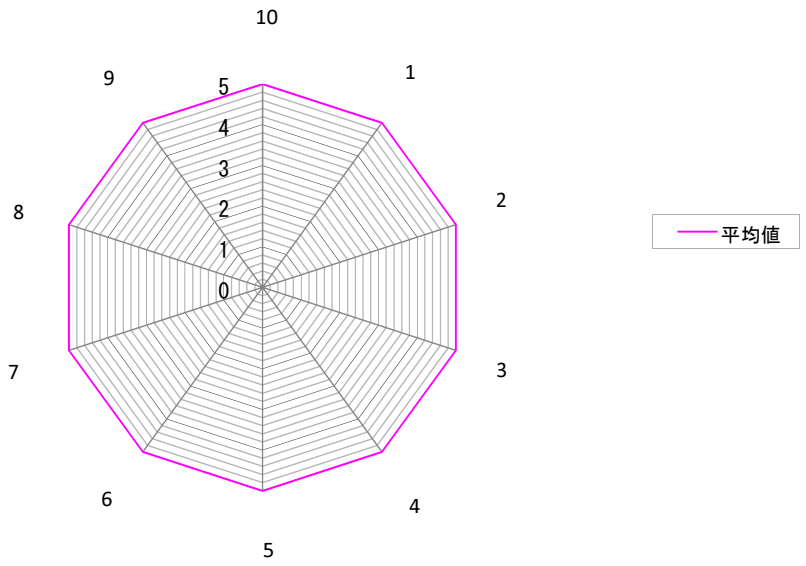
教員のコメント

本授業では，現代日本語に関する研究論文を批判的に読み，検討を行うことを目的とし，「意味分析」をテーマとする演習活動を行った。受講者数は 3 名（＋聴講 2名）であった。
授業評価の総合評価は 5.0，全項目の平均値は 4.90 であり，授業のねらいと内容・方法は肯定的な評価が得られた。
受講者の取り組みについても，受講者数が少なく，一人当たりの負担が例年よりも重かったものの，項目9の評価（4.60）から，意欲的な取り組みがなされたことが分かる。また，授業担当者は，語彙の意味分析は研究だけでなく国語教育・日本語教育の実践においても必要な基本的事項であると考えているが，項目3の高い評価（4.80）からは，単なる知識ではなく実践に活きるものとして本授業の活動が捉えられたことが読み取れる。
改善を要する点に関するコメントはなかった（「特になし」3，無記入 2）が，受講者が常に「考える」ような授業を今後も展開していきたい。

結果報告書

授業科目名　日本文学演習Ⅰ
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　野口　哲也　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



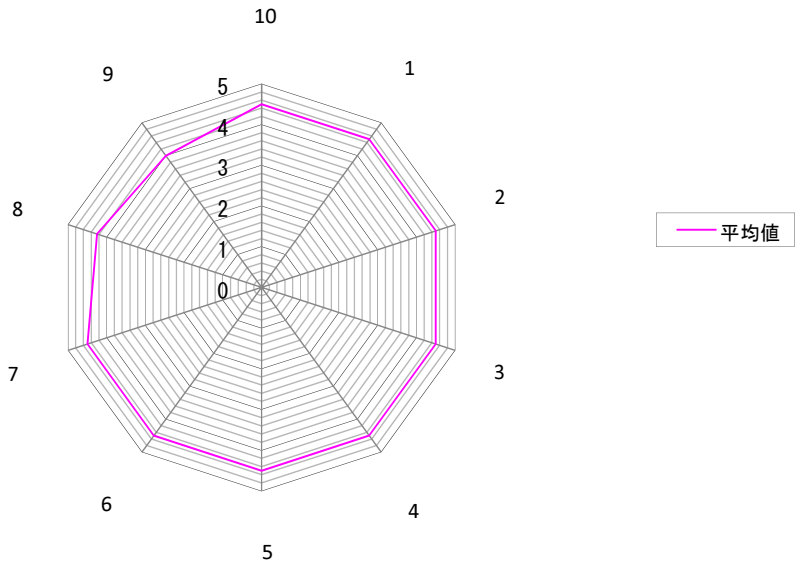
教員のコメント

受講者が少数だったこともあり、好評価を得られた。自由記述による回答においても、時間をかけて文学作品を読むという作業自体に高い満足度が示されている。
今年度は自由聴講も含め多くの受講者に参加してもらえるよう、授業内外で学生に積極的に働きかけてゆきたい。

結果報告書

授業科目名　日本語文法演習
評価実施日　平成22年2月17日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2				2	4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				2	4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				2	4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2				2	4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2				2	4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				2	4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2				2	4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	1			2	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		4				2	4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2				2	4.5



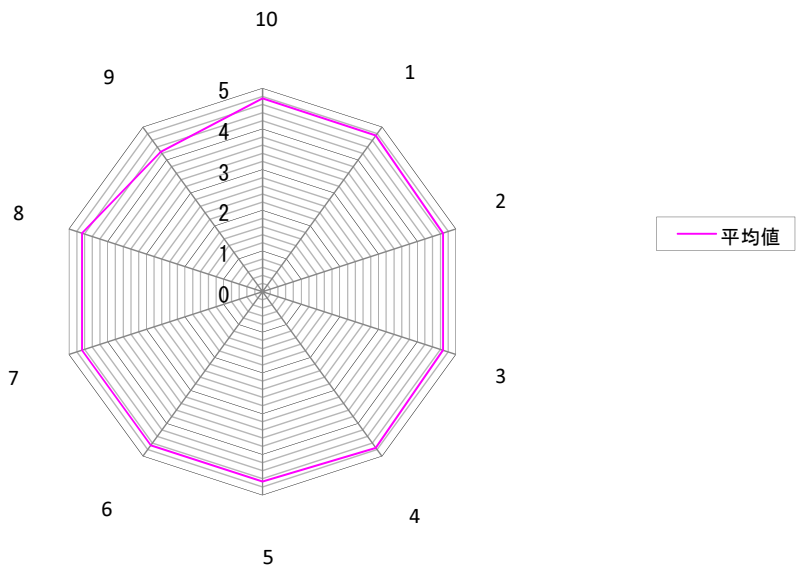
教員のコメント

本授業は，論文の講読を通じて，日本語の文法についての知識を深めるとともに，文法研究の観点および方法論を身につけることを目標とした。授業では，受講者一人ひとりに論文の内容を紹介してもらうとともに疑問点，問題点を指摘してもらい，それをもとにディスカッションを行い，理解を深めていった。今回の評価結果を見ると，いずれの項目も高い評価を得ており，本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われるが，今後の課題として，項目(9)「授業への主体的な参加」という点が挙げられる。授業で講読する論文を事前に配布して，各自で読んだ上で授業に臨むことを求めたが，取り組み方には差が見られたように思われる。今後は授業への主体的・積極的な取り組みを促すような授業作りに努めたい。

結果報告書

授業科目名　日本語語彙論
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1				2	4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				3	4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				3	4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1				2	4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1				3	4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				3	4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1				3	4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1				3	4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1			2	4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1				2	4.8



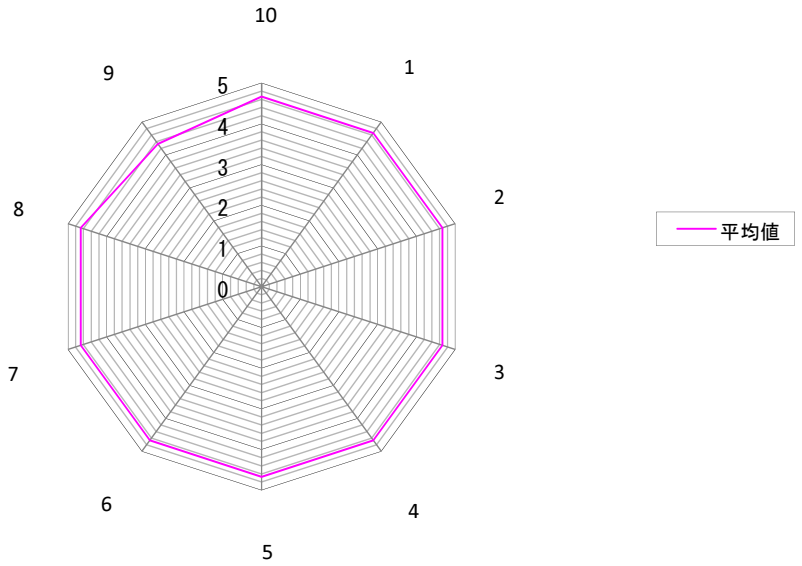
教員のコメント

本授業は，普段無意識に使用している日本語の語彙を意識化するとともに，日本語教師として必要な語彙の意味や体系に関する知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で，留学生の参加を得たことは有意義であった。他の言語と比較することで日本語の語彙の特徴を明らかにすることができた。また，日本語学習者としての視点からの発言により，習得上の問題点を確認することができた。このような受講者間の相互作用もあり，概ね上記の目標を達成することができた。今回の評価結果を見ると，いずれの項目も高い評価を得ており，受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後は，特に項目(9)「授業への主体的な参加」という点に留意することで，授業の更なる改善を図っていきたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅲ
評価実施日　平成22年2月22日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



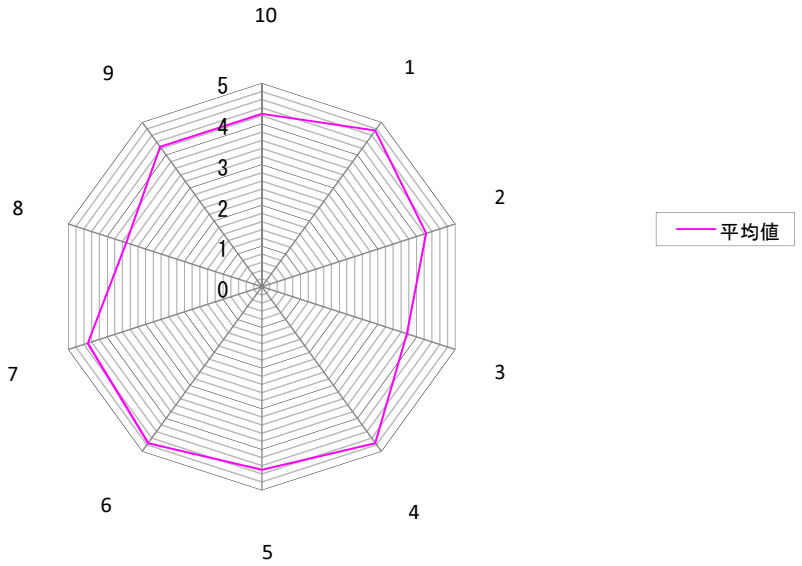
教員のコメント

本授業では，レポートや論文を読むための日本語力を身につけることを目標とした。漢字圏・非漢字圏の学習者や様々な日本語レベルの学習者が混在していたため，授業を進める際に困難さを感じることもあったが，今回の評価結果を見ると，(5)「授業の進む速さ」，(6)「説明のしかた」，(7)「教科書や配布資料」，(8)「板書のしかた」に関しては概ね適切であったと思われる。但し，項目(9)に関して，学習者の主体的・積極的な取り組みを促すような授業作りに今後はさらに努める必要がある。

結果報告書

授業科目名　英米文化研究Ⅲ
評価実施日　平成22年2月18日
担当教員名　杉浦　裕子　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1	1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		3	1				3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		2	2				3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	3					4.3



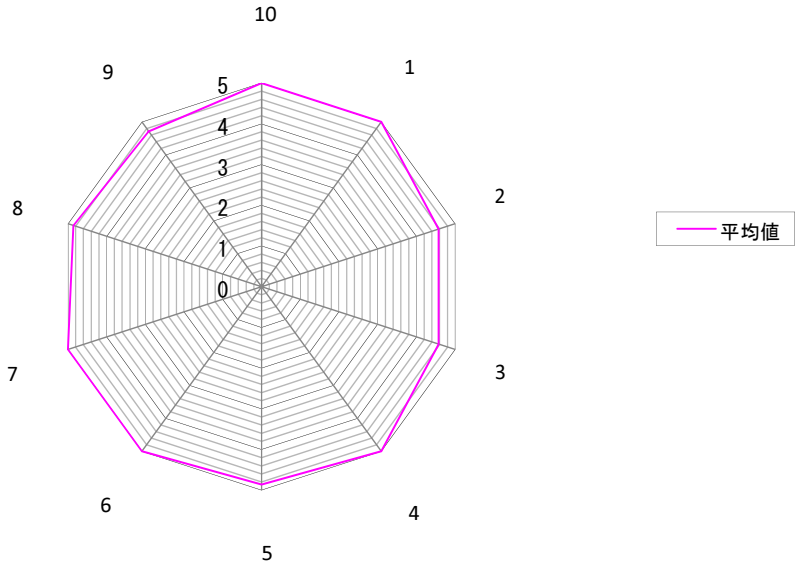
教員のコメント

受講生にとってはやや難解な英語を精読するいい機会になっただろうし、受講生主体で作者や文化的・社会的背景を調べて発表してもらったのはよかったと思う。ただ、英語が思った以上に難しく、予定のペースで進まなかったために、小説を最後まで読み終わらなかったこと、結果的に最後まで通観してからのディスカッションができなかったことが授業担当者として心残りであったし、責任も感じている。長編小説を題材にする時には本の選び方、1週間に進むページ数配分、毎週の授業の進め方までもっと工夫すべき点があったと思う。今後に活かしたい。

結果報告書

授業科目名　英米文学応用演習Ⅰ
評価実施日　平成22年2月22日
担当教員名　前田　一平　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1	1				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	1				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6		1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



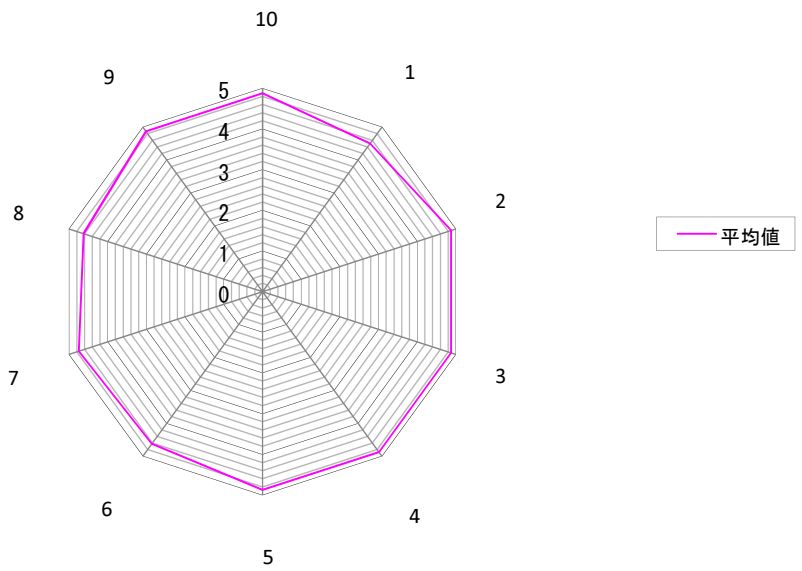
教員のコメント

質問事項の半分である5項目で評価は5、残りの半分の項目も評価が4.6から4.9である。この結果から、特に改善すべき点や反省点はみあたらない。項目(2)と(3)で評価3としたものが2名いるが、本授業のように文学作品の講読の場合は、「専門的知識」の習得を目的としていないし、「教師の実践力育成」にも直接的には関係しない。それゆえ、評価3とした受講生は素直に評価したものと思える。アメリカ文学は英語教育を目的としていないので、この評価は無視するべきものである。本学は教員養成の専門学校ではないはずだから。ただ、教員の立場から言えることは、ベストな授業はないのだし、自分の授業の欠点は自分がよくわかっているわけだから、今後、常に自分なりの授業改善を試みなければならないと思う。尚、自由記述のコメントは[2]の「良かったと思われる点」のみで、回答者7名中6名が「文学の読み方がわかった」等、好意的な評価を記してくれた。素直に喜びたい。

結果報告書

授業科目名　小学校英語教育演習
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　ｼﾞｪﾗｰﾄﾞ ﾏｰｼｪｿ　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	3					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	1					4.9



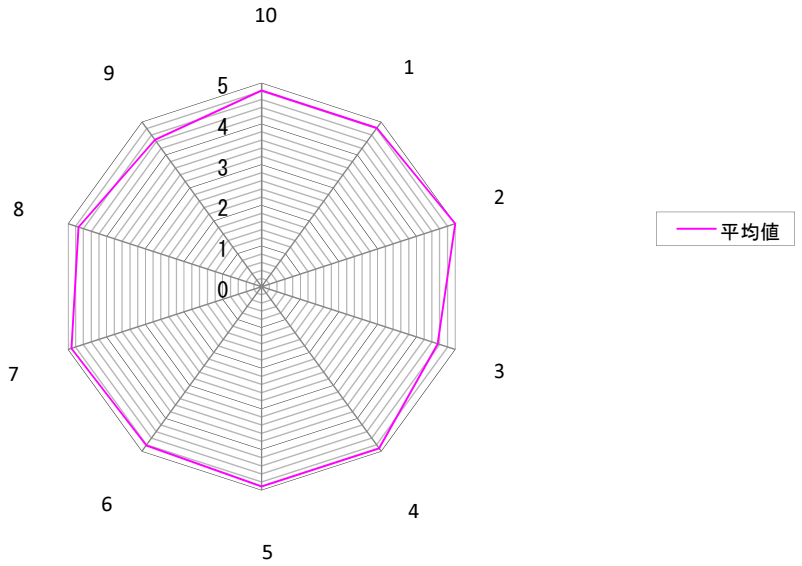
教員のコメント

This is to confirm that I have read the evaluation above and will consider the information when planning for this current academic year. Although the evaluation is primarily positive, it is my feeling that at times I was only marginally able to explain the contence of the lessons. I will consider this when planning in the future

結果報告書

授業科目名　歴史学研究Ⅰ
評価実施日　平成22年2月15日
担当教員名　大石　雅章　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	10	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	3					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	2					4.8



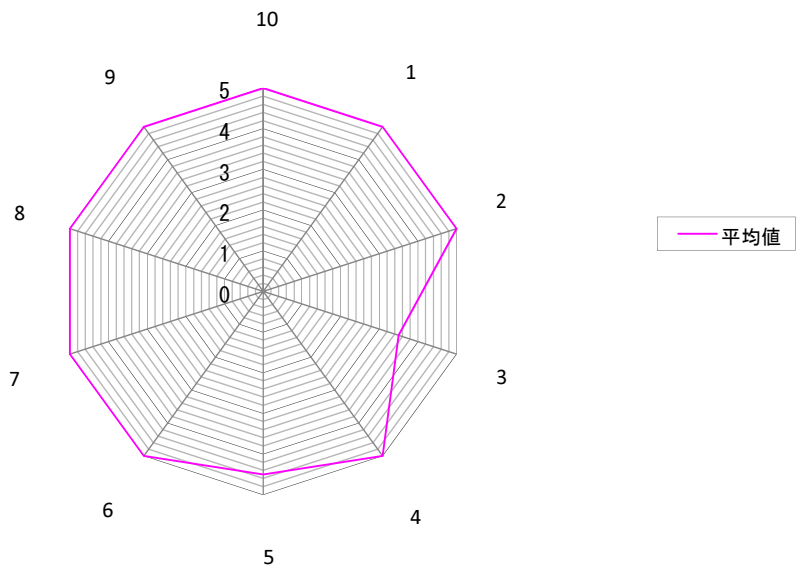
教員のコメント

各項目の評価が4．5から5．0にあり、総合評価も4．8であった。今後は学生の主体的な取組をさらに喚起させるなど、一層授業の改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名　歴史学演習Ⅱ
評価実施日　平成22年2月18日
担当教員名　町田　哲　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	1				3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1					1	5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



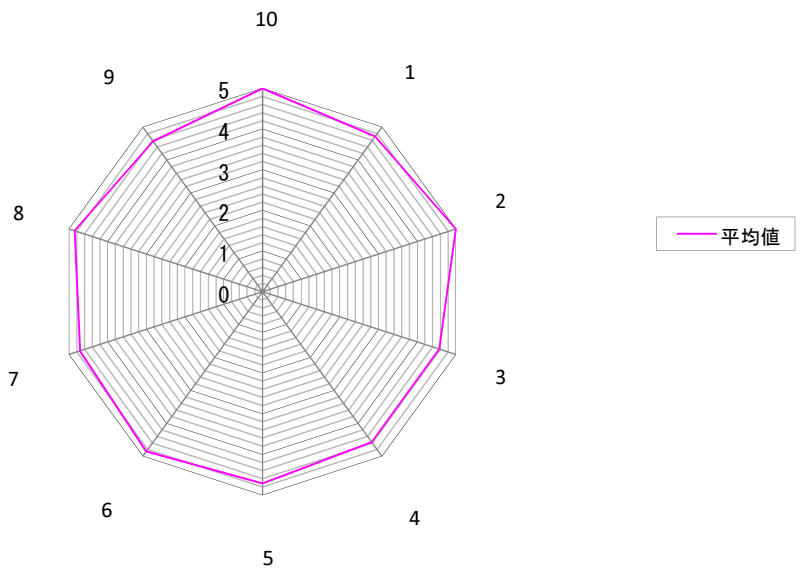
教員のコメント

この講義では、日本近世の社会の特徴について、多角的に捉えることのできる力量の獲得を目標としている。具体的には、今年度は四国遍路と地域との関わりについて、活字史料をもとに検討した。院生は、担当する史料を読み込みながら、そこからありきたりの解釈ではなく、倒れ遍路の実態、倒れ遍路に対する地域の対応、また一方で遍路やその周辺の乞食＝勧進層を忌避し統制しようとする地域や藩の動向を理解した。受講生は概ね積極的に授業に参加し、事前の理解を目指し、史料をもとに歴史的構想力をつけるべく努力した。教員でも、研究史・論点提示・史料解釈・歴史像提示という一連の動きを、示すことができたと考える。
その点が上記のような概ね好評を得ることができた点に反映したものと考える。唯一低い3「実践力の育成」については、実践力を、即席の力量あるいは教材確保とみるのであれば、当然低い評価となるだろう。しかし実践力に至るための、歴史的思考力、あるいは歴史的現在における歴史学のあり方を問う点でいえば、十分その期待に応える内容になっていたと考える。なお、最終回は受講学生の出席が少なく、8名中、2名のみの回答となったのが残念である。

結果報告書

授業科目名　歴史学演習Ⅲ
評価実施日　平成22年2月18日
担当教員名　原田　昌博　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	1				4.6
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1	1				4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	2					4.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2					4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



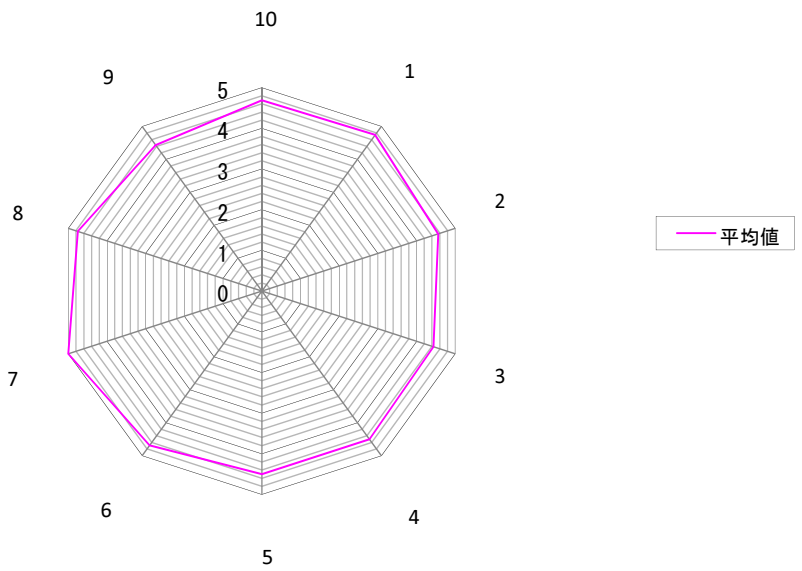
教員のコメント

全体的に見て、各質問項目とも「5」の評価が最も多く、いずれの項目も平均値が「4.5」以上であった点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。とりわけ、質問2で全員が「5」と評価していたことから、本授業が歴史学（外国史）の専門的知識の習得に役立ったと感じていることが読み取れる。また、内容的に専門性が高いものであった半面、レジュメ作成を数回課したことや受講者自身の意見を積極的に求めたことが「実践力の育成」の評価を高いものにしたと考えられる。最後に、質問10で全員が「5」と評価している点からも、学生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。

結果報告書

授業科目名　幾何学研究
評価実施日　平成22年2月23日
担当教員名　松岡　隆　　回答者数　16　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	2	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	4		1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	4	1	1			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	6	1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	6	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	5					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	16						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	14	1		1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	4	1	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	3	1				4.7



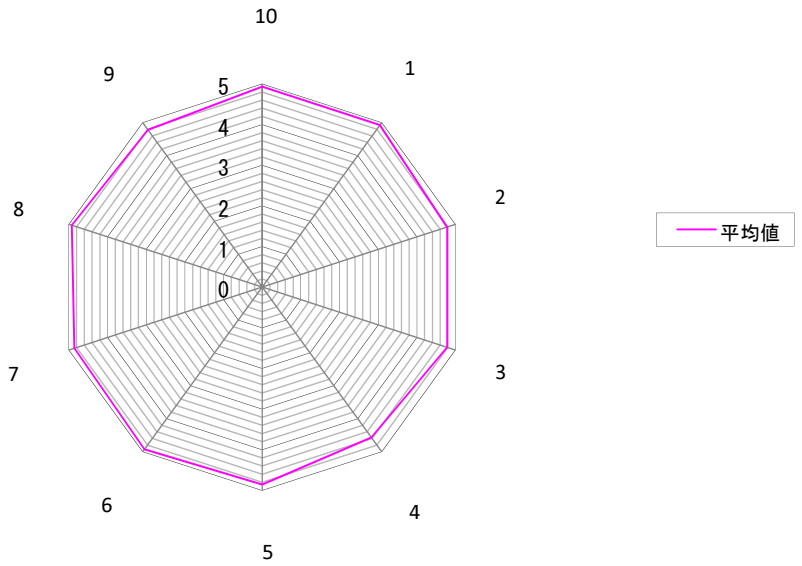
教員のコメント

各項目の評価平均値は，4．4から5．0の間に分布しており，受講生からの評価は概ね良好であると思われる。自由記述の「良かった点」欄には，以下の回答があった。「シートを使ったたくさんの教材を紹介していただいて視覚的にとらえやすかったです」，「専門の知識を深めるとともに現場でも活用できる内容を提示してくださったので良かったと思う」，「実生活でよく見られるモアレ模様について，数学的に考えることができる良い機会であった」，「OHPフィルムなど様々なものを使用して実験的にいろいろと考えることができた」，「面白かった」，「興味深い内容を扱われたので，苦手な幾何を楽しむことができました。難しい内容を易しく教えることの大切さを学びました」。改善点欄の回答は，「来年度も同じ内容で実施して欲しいと思います」，「機械の扱い」であった。後者については，一度パソコンを用いたときに手間取ったことへの指摘であると思うので改善していきたい。「その他感想」欄には「前の大学と大学院で初の幾何の授業でおもしろかったです」との回答があった。

結果報告書

授業科目名　幾何学演習
評価実施日　平成22年2月23日
担当教員名　松岡　隆　　回答者数　14　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	3					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	3					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	4	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	12	2					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	2					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	13	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	3					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	13	1					4.9



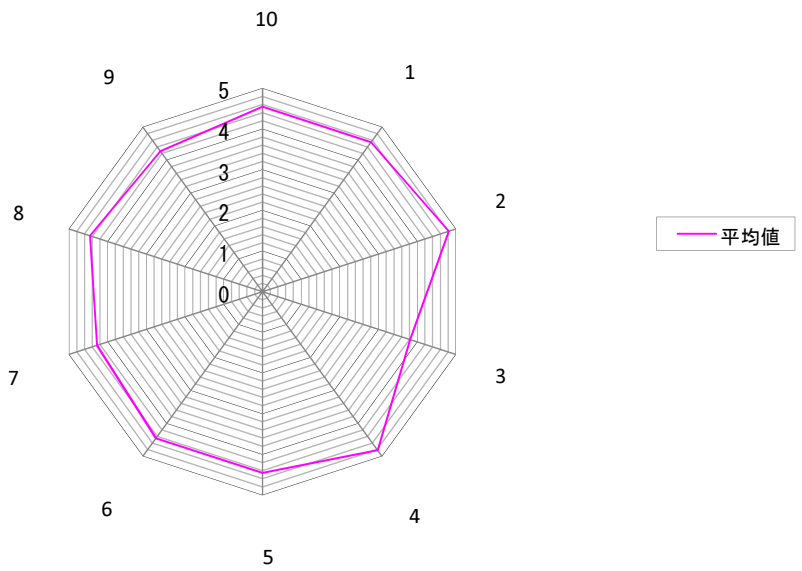
教員のコメント

各項目の評価平均値は，4．6から4．9の間に分布し総合評価も4．9であり，受講生からの評価は概ね良好であると思われる。自由記述の「良かった点」欄には，以下の回答があった。「たくさんの種類の教材を知ることができた点」，「即現場で実践できるような教材を提示していただきとても参考になった」，「実際に厚紙などを使用して各自で立体図形などを作成することでじっくり観察できてよかったと思います」，「学生の活動が多く楽しみながら学べる内容だったと思います」，「立体について作成しながら考えることができた点」，「On the course(Geometry Teaching Materials)，・Develop the imaging to the Geometry shapes，・To teach/learn geometry with the materials which can make easily and also easy to understand，・Very useful and interesting for class，The materials which made by the simple things(paper,...) are also perfectly to apply for real situation.」。また，「その他感想」欄には，「授業で作成したものを活用したいと思っています」との回答があった。「改善点」欄の回答は無かった。

結果報告書

授業科目名　解析学研究
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　成川　公昭　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	1			1		4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	2	1	1		3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	6					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	4	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2	3				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	4	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5		1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	5					4.5



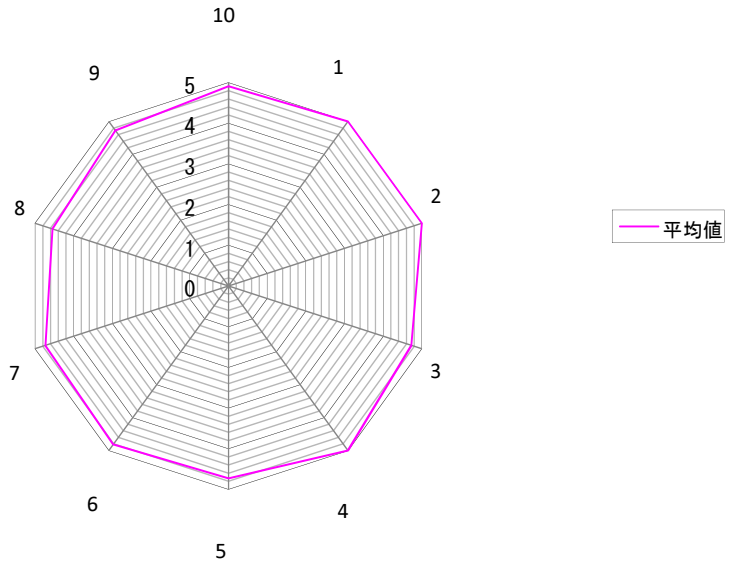
教員のコメント

今回講義内容を専門的，高度なものにしてそれに耐えうる思考力を養うことを目的に行った．従来の内容と比べてかなり難しい内容であったにもかかわらず，質問項目(3)以外において4点以上の結果が出ており，学生自身が講義目的をよく理解して講義に望んでいたことが予想される．教師の実践力との関わりについては，実際には関連することがその裏に多く存在するのであるが，そこまで解説する余裕がなく，3．8点という結果が出ており深く反省するところである．学生からのコメントとしては，「前半の内容は，高校までに学習した内容を別の視点で見る機会を与えてくださりおもしろかったです．後半は難しく理解が難しかったですが，先生の思いが伝わってきました．」「わからない部分を丁寧に教えてくれたのでたすかりました．」「専門的なことについて学べた．」専門的知識をみにつけるのに役だった．」「To remember some concepts about analysis」「To know demonstration」との肯定的な意見でこちらの授業目的がよく理解できていると思わせる一方で，「専門的すぎる．」「授業を扱う内容が難しかったので，進度をゆっくりし，小テストを入れていくと復習せざるを得ず，更なる内容の理解に繋がっていくと思います．」「Give some references for lokking information」との意見がありこの点において授業の工夫の必要を感じた．

結果報告書

授業科目名　解析学演習
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　成川　公昭　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10			1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	3					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	1	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	3	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	1					4.9



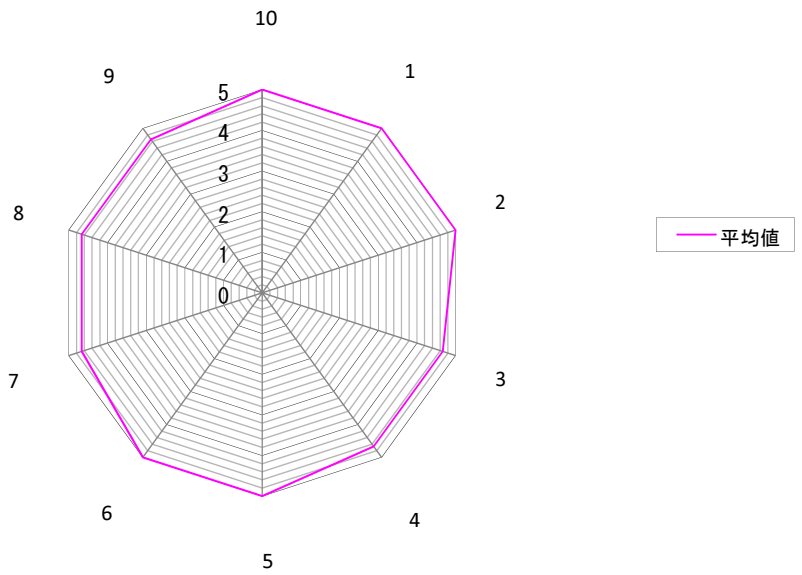
教員のコメント

学校数学との関わりを考えながら，学生の主体的調査，研究，発表を重視した授業であったため，全項目においてほぼ5点と，授業の充実度，学生の満足度共に達成された授業であったと判断される．学生からのコメントでも，「既習内容を，新たな視点で考え直す機会を与えてくださったことは今後に生かせると思います．」「考えさせる内容の問題を取り扱っている．」「様々な種類の問題を知る良い機会となりました．」「All problems that were some difficult but I have time for thinking; not always I found answer but the explanations were clear.」「I could see how to resolve some problems.」「I liked this course because I had to think in different ways to solve a one problem. First understood the problem, and try to solve, finally try to think how to teach.」と，が癖の期待に応えられた授業であったと判断できる．一方で，「Give problems with anticipation because sometime I couldn't think very fast, then I need more time in order to look or find solution.」との意見がひとつあった．学生の反応を見ながら導入の問題をもう少し加えた方が良かったのかも知れない．

結果報告書

授業科目名　無機化学特論
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　早藤　幸隆，今倉　康宏　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



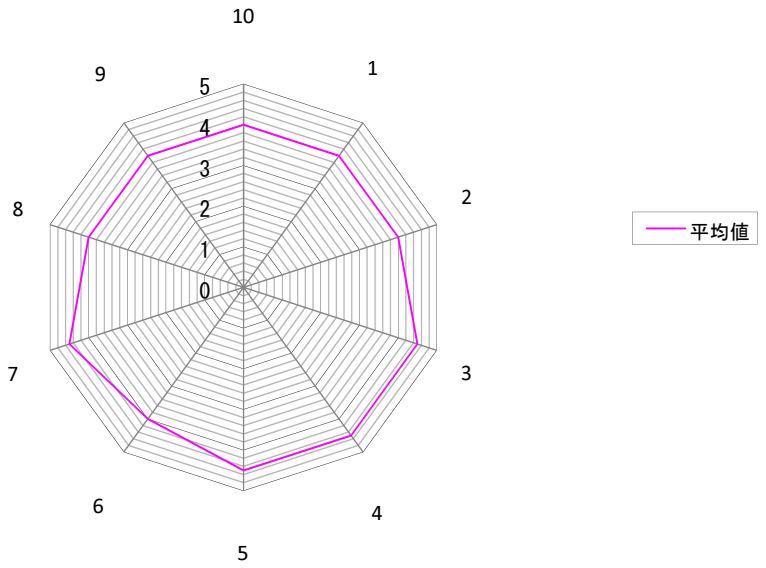
教員のコメント

全体的に受講者から好意的な評価を受けており，質問項目（1）の結果より本講義における目標と目的は達成出来たと考えられる。無機化学の基礎・基本的な内容を重視した講義の構成と展開により，質問項目（3）が高く評価されると共に，単元の終わりに演習問題を繰り返しながら，詳細な解説と説明により，質問項目（5）および（6）が評価されたと思われる。講義はパワーポイントの提示により説明を進め，単元の終わりにパワーポイントの提示内容を資料として配付する事にし，内容をノートに記述する事を課した。質問項目（10）より講義に関して高評価が得られた事から，来年度以降も講義内容や演習問題の形式などに改良を加えながら継続して進めて行きたい。

結果報告書

授業科目名　細胞生物学特論
評価実施日　平成22年2月18日
担当教員名　米澤　義彦，佐藤　勝幸　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。		2					4.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2					4.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。		2					4.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		2					4.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2					4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。		2					4.0



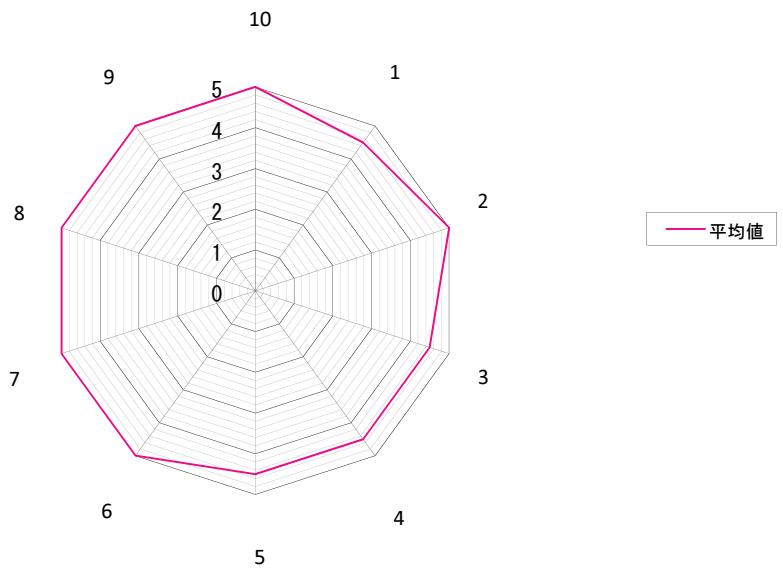
教員のコメント

この授業の受講者は3名であり，そのうちのひとりは留学生であったので別に授業を行った。残り2名の受講者のうちのひとりは，いわゆるストレートマスターで生物系の出身であるが，他の1名は農学部出身である。したがって，試験は行わずレポートを提出させたが，ともに十分とは言えない理解力であった。留学生は現職の教員であり，生物を専門としているため，実験中心の講義を熱心に受講し，よく理解をしていたように思われる。 授業としては成立したように思われるが，このような少人数の講義で授業アンケートを行う意味はないと思われる。

結果報告書

授業科目名　地学実験法特講
評価実施日　平成22年2月17日
担当教員名　小澤　大成，村田　守，西村　宏，香西　武　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



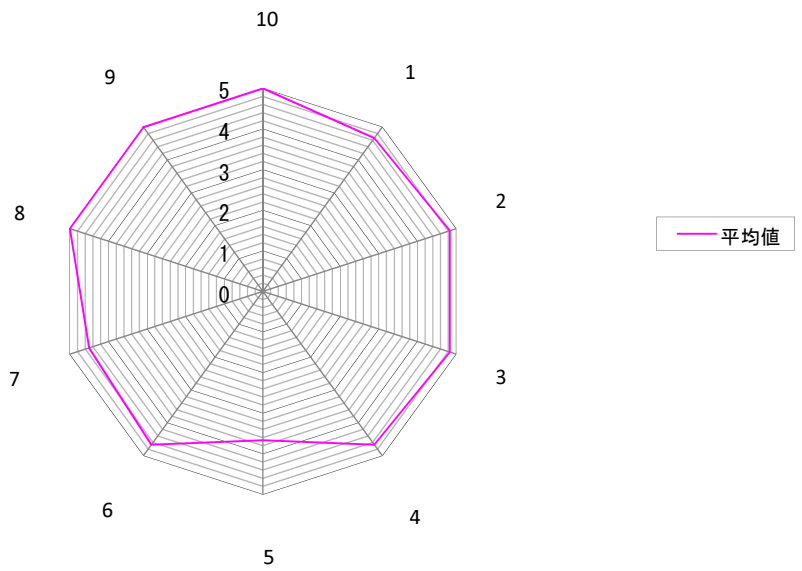
教員のコメント

全ての項目で4.5以上と高い評価を受けていて，総合評価も5であった（受講者2名）。内容面の深さについては「教師として求められる以上の内容の講義を受けられた」という高い評価がある一方，「少し内容が難しかった」という意見もあり，今後の調整が必要と考えられる。

結果報告書

授業科目名　歌唱表現演習A
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　頃安　利秀　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4				2		3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5		1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	3					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



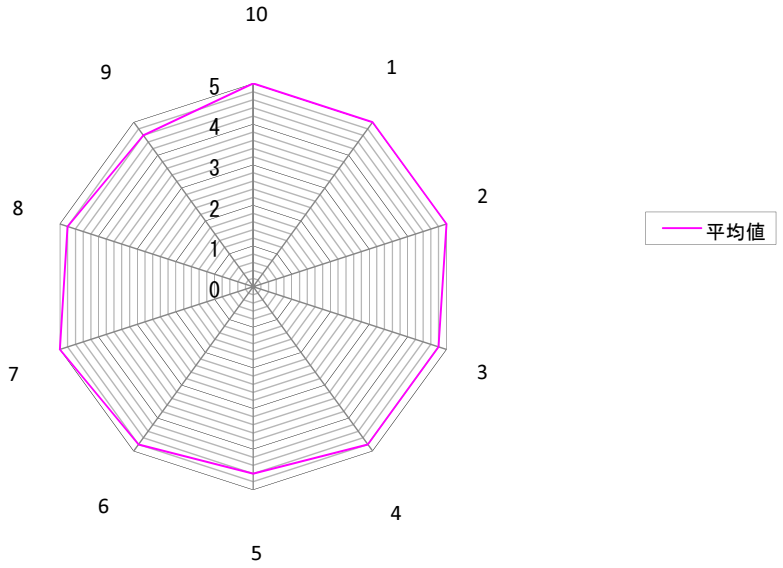
教員のコメント

この授業では，前期に行った「声楽発声法」という授業で学んだ理論的な知識をもとに，受講生個々の歌唱表現実践能力を高めていくことを目的としている。そのため授業では声楽実技が中心となる。評価結果をみると，(5)授業の進む速さは，適切であった，の項目についてポイントが下がっているが，これは前期の「声楽発声法」を履修していない受講生の評価ポイントが低くなったためと考えられる。半年の期間中で段階が異なる学生の実技能力を高めていくためには，授業の進行速度についてこれない学生が出ることはある程度仕方がないことだと考える。しかしながら総合的には全員の受講生がこの授業に満足しているという評価が出ているので了としたい。

結果報告書

授業科目名　歌唱表現演習
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　草下　實　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4		1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



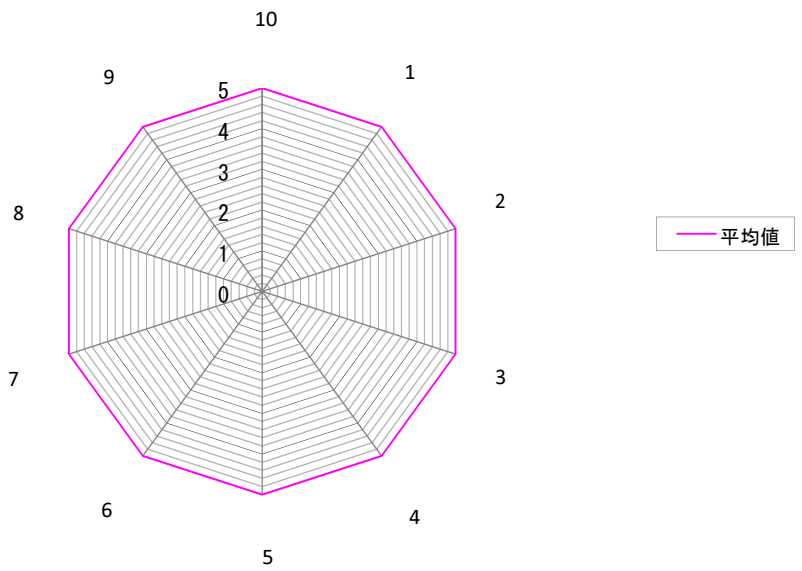
教員のコメント

当該授業の理念「童心」を探究し，表現することをテーマとして、歌唱表現に関わる基本思想及び声による歌唱技法，テクストの朗読や言葉の発音を通して，学校教育における歌唱指導が自信を以て，可能となるようにすること，また，自身の技能に応じた歌唱表現能力を培うという目標も十分に達成できている。これらのことから，本授業は履修学生の目的，歌唱上の表現に関する課題解決という側面においても十分応えることができる授業内容・方法・教材による授業展開が図られており，さらに毎年，実施している授業評価における授業改善への指摘事項を真摯に受け止め，精査して授業改善に取り組んできた結果，現在では理想的な授業の在り方になってきていると判断できる。本事業は聴講としてのリピーターとして再受講する学生が多いことからも授業の学生への有効性が認められる。

結果報告書

授業科目名　室内楽（器楽）
評価実施日　平成22年２月23日
担当教員名　森　正，山根　秀憲　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



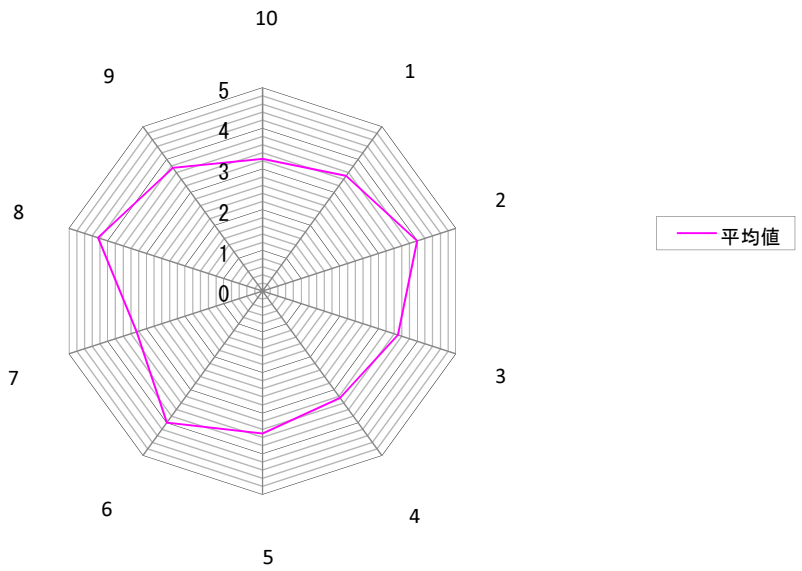
教員のコメント

受講した学生と聴講した学生の二人を対象とした授業となった。参加した学生は少なかったが，そのため時間的には非常にゆとりを持って授業を進めることが可能であった。このことは，受講した学生が中国からの留学生ということで，ピアノ演奏の基本的な問題や室内楽に対する経験の不足等の問題をもっていたが，これらに対する問題解決のためには良好な状況であった。このような授業の実態は，受講した学生からも高く評価され，このような評価になったと考える。

結果報告書

授業科目名　ソルフェージュ研究
評価実施日　平成22年２月22日
担当教員名　山田　啓明　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	2			1		3.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2	1				4.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1	1			3.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。		2	1	1			3.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1	1	1	1			3.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2	1		1			4.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1		2			3.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	2				3.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1		2			3.3

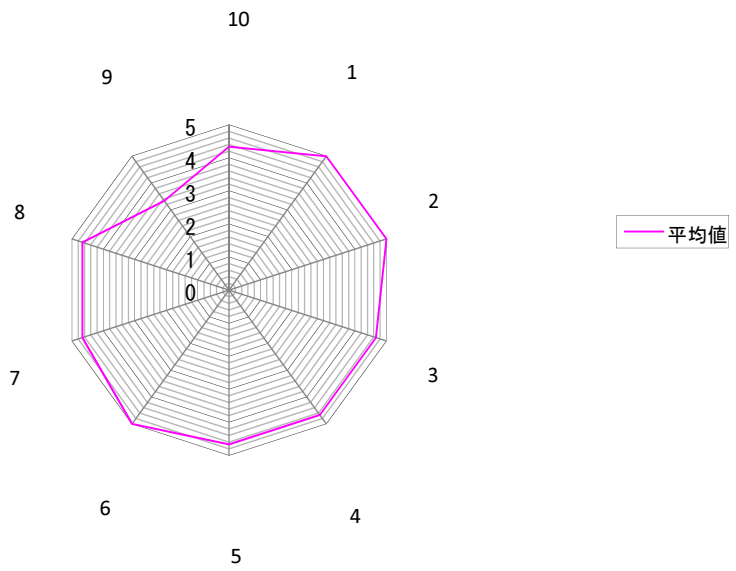


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　作曲法基礎演習
評価実施日　平成22年2月18日
担当教員名　松岡　貴史　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2		1			3.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2					4.3



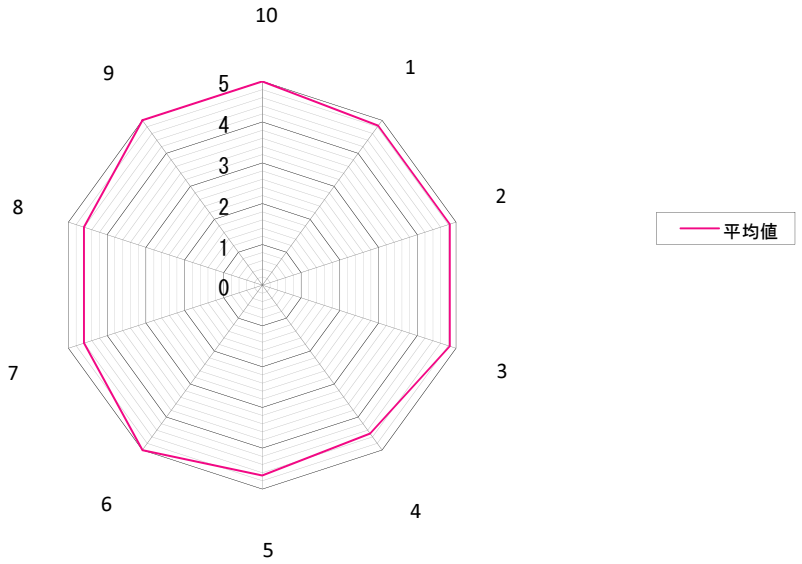
教員のコメント

授業に対しては肯定的な評価が高く、「授業に主体的・積極的に取り組んだか」など、受講者自身に対しては控えめな自己評価が返ってきている．受講者が3人なので書きにくい面もあったのかなと思うが、自由記述においても，「改善すべきと思われる点」については全員「特にありません。」と答えていた。「良かったと思われる点」については、「学校現場で役立てていける創造的な音楽学習の教材や指導法について学べたこと」「キーボードハーモニーを基礎から細かく学べ、和声について少しずつ理解できるようになったこと」「曲作りに、いつも一人ひとりのレベルにあった、細かく丁寧で的確な指導が得られ、いくつか自分の曲ができたこと」などが挙げられていた。

結果報告書

授業科目名　油画制作演習
評価実施日　平成22年２月４日
担当教員名　鈴木　久人　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2				1	4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2				1	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



教員のコメント

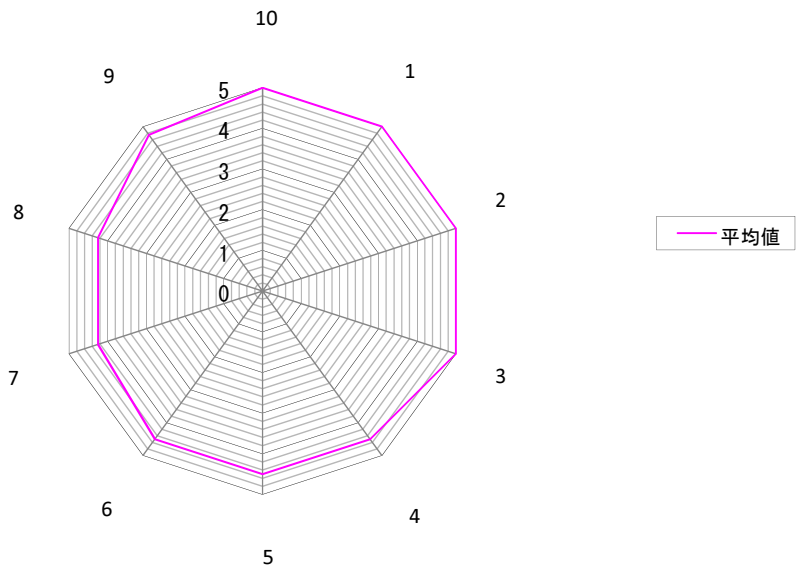
質問項目，自由記述欄，ともに概ね，好意的評価と言える。例年，授業期間の前半は紙を支持体とした制作，後半はタブローを支持体としたものとし，履修学生にその希望などを聞き，なるべく個々の学生のニーズに応えることを基本とした。このことについては多くの受講生が評価している。

今後とも引き続き本授業内容の現場での展開の可能性や方法，児童・生徒の作品の鑑賞方法や評価法についてもより学生とディスカッションなどを通して深めていきたい。

結果報告書

授業科目名　平面造形演習
評価実施日　平成22年２月９日
担当教員名　西田　威汎　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（１）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	（２）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	（３）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	（４）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3		1				4.5
	（５）授業の進む速さは，適切であった。	3		1				4.5
	（６）受講生に分かりやすく説明した。	3		1				4.5
	（７）教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1	1				4.3
	（８）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	（９）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



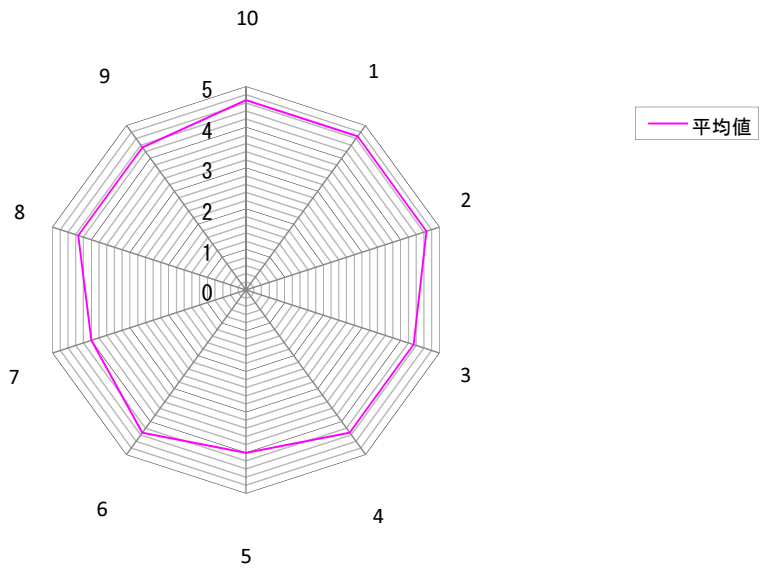
教員のコメント

全体的には適切な評価を得ているが、教員の授業の進め方（４）～（８）の項目で、若干理解されていない人が１人いるので、その点を省みて、全員に伝わるように工夫してみたいと考える。

結果報告書

授業科目名　彫刻制作研究
評価実施日　平成22年2月22日
担当教員名　長岡　強　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2		1				4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1	1	1				4.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。		3					4.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7

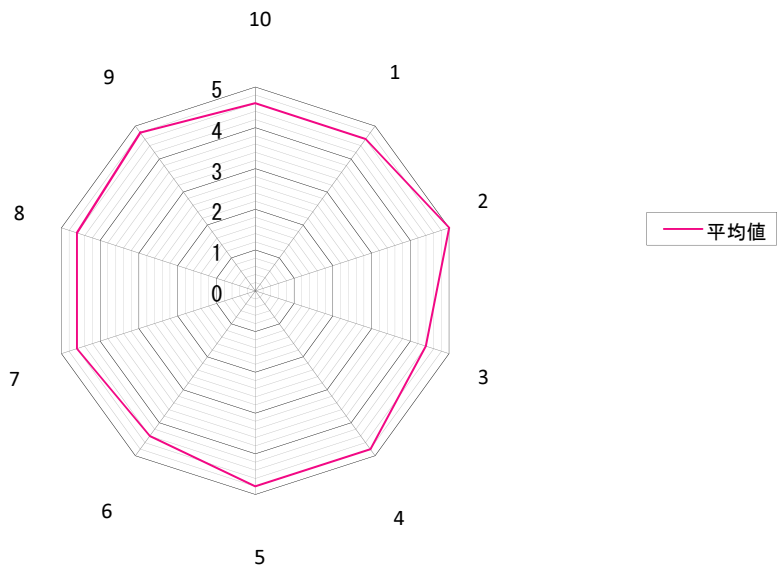


受講生がわずか3名のため，指導も徹底したこともあり、概ね肯定的名評価が多かった。男子学生が一人であったので、ブロンズ鋳造ではなく，低融点金属による簡易鋳造を実施した。

結果報告書

授業科目名　デザイン制作研究
評価実施日　平成22年2月16日
担当教員名　松島　正矩　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	2					4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	1				4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3	1	1				4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2					4.6
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2					4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2					4.6



教員のコメント

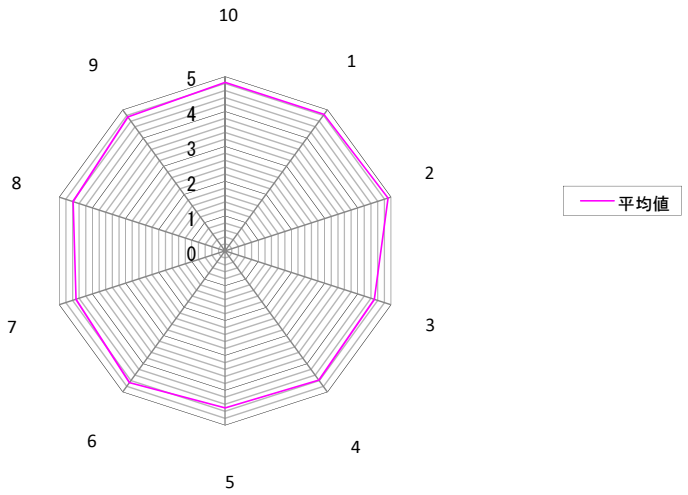
美術コースの学生4名，技術コースの学生2名が受講してくれた。その他，日本語での授業に慣れるためにと，中国からの研究生1名が参加した。15週目に1名が欠席したため，アンケート回答者が5名になってしまったが，全員が出席した日が10回あり，全員が熱心に受講してくれたと感じている。例年よりかなり少ない受講生ではあったが，能力に応じて個別に対応することができた点で大変満足している。

1名の学生が2つの項目で評価3を付けている。この授業は，デザインで使用するアプリケーションの理解とそれを使用した制作に重点を置いているので，教師の実践力の育成にはつながりにくい。初めての学生には分かりにくい点もあったようであり，今後改善していきたい。総合評価をみると，全員がこの授業に満足してくれた様子がうかがえるので，良い評価をしてもらえたのではないかと思っている。

結果報告書

授業科目名　映像デザイン演習
評価実施日　平成22年２月22日
担当教員名　内藤　隆　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	2					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1					4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	4	1				4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	3	1				4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	8	3		1			4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	9	2	1				4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7	4	1				4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	5					4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	2					4.8



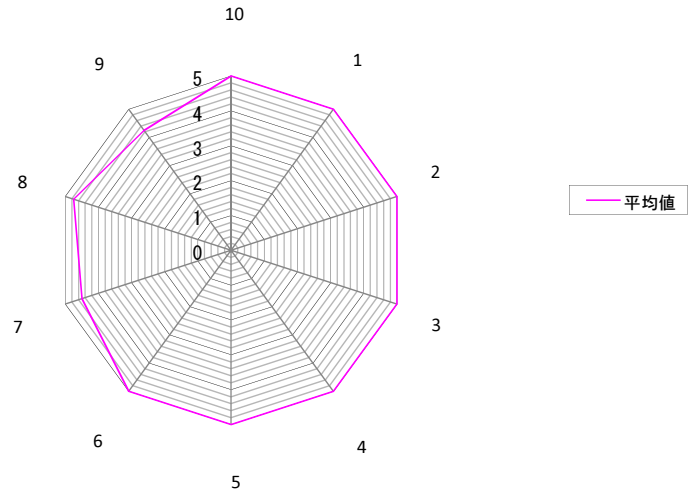
教員のコメント

本年度の正式な受講者は11名だったが、他に単位不要で受講した者が2名居り、内藤がうっかり最終回に居合わせた全員にアンケートを配布したためアンケートの回収枚数は12枚あった。本年度は、段ボールと虫眼鏡でカメラ自体（印画紙を装填し撮影できる）を制作する内容と、デジタルカメラでの撮影実習とを主な内容とした。この内容編成はこれで3年目となる。授業当初に全員に了解をとり、前半のうちに段ボール製カメラの工作を行った。続く3週間に手製カメラでの撮影・現像作業、次の4週間は情報基盤センターから借りた一眼レフデジタルカメラとスタジオの使用法説明及び撮影実習（人物と小物）、最後の2週に古典映像メディアから現代映像系メディアまでの概略をビデオで紹介した。 グラフを見ても判る通り、概ね好評を得ていると考えている。アンケートの記号回答では一人だけ低めの点数を付けている者がいたが（そもそも標準点を何点に持って行くかは個人差がある）、授業の進む速度についての評点が「2」という者があった。これ以外の者は「5」が8名、「4」が3名だった。理由を確認したい所だが、残念ながら裏面には自由記述がされていなかった。 以下は他の者の自由記述について。好意的評価のみは6枚、無記入が2枚あるがこれは無視する。改善要求の点は「少数人数製にした方がより良かったように思う」「他の方々の作品や撮り方を知りたかったので好評回等有ると嬉しかった」「映像やメディア等もっと現在のものが知りたかった」の3つが挙げられた。廃段ボールを使った工作では机の面積を使うため10名以上になるともう混雑する。少人数制は考慮すべきかもしれない。講評についても最後の回あたりで考えたい。暗室で印画紙にイメージが浮き上がって来る瞬間はなかなか体験できない。このため意外と学生の人気が高く、これもこの手の内容をこれらの授業で継続して来た理由である。しかし現代メディアを希望する意見については、数年以内にその授業内容（ビデオ編集など）に変更する。印画紙等暗室現像媒体が最近製造中止（コダックは既に製造中止）になり始めている為である。

結果報告書

授業科目名　総合造形研究
評価実施日　平成22年2月12日
担当教員名　野崎　窮，内藤　隆　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3		1				4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



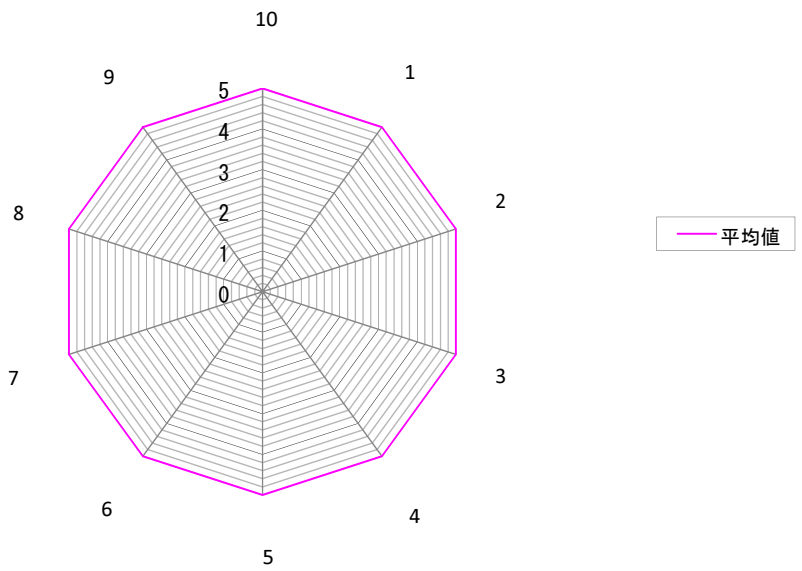
教員のコメント

この授業の本年度の内容は、授業日程の説明、日帰りで神戸ビエンナーレの見学・資料収集、各自で興味を持っているアーティストの研究とその発表、各自の作品制作とその展示（芸術棟1階ギャラリー）、である。コンセプチュアル（概念）アートを基本的なターゲットとし、この考え方に沿って自分なりの考えと表現の実現を試みて行く。 グラフを見ても判るように、概ね好評を得ていると考えられる。マークシートの回答では点数が5で無いものが4カ所だけあった。そのうち2カ所は項目（9）の学生の自己評価なので無視する。残り2点は項目（7）（8）であるが、この授業では基本的に教員側からの指定教科書や配布資料は無いこと、また、板書や視聴覚機器を特別に使用する箇所が無いこと、の為にこの回答と思われる。 なお、以下は自由記述について。授業で良かったと思われる点は「全く判らなかった現代アートに対して「神戸ビエンナーレ」など触れて考える所から作家の紹介・制作を段階を踏んで理解していくことができたこと。段取り・段階の設定が学びの助けになったこと」「計画を立てることと制作を行うことを短期間に実施できたこと。実際に行うことができて、頭で考えることと素材で判ることの違いが知れ、そのことを埋める作業が判り、体験したことが良かった。みんなと一緒に展覧会に行って鑑賞ができたこと。みんなと一緒に展覧会の準備ができたこと」「たくさん作れて良かった」「制作から展示までの一連の流れがどのくらい大変なのか良く判りました」。一方、授業に改善を求める点は「授業準備の中間報告の日数やプロセス終盤の報告が少し早めにあっても良かった（制作者側の怠慢です。すみません）」「もっと展示の仕方を工夫したらいいと思った」とあった。前者については各自の制作の段階のことを指していると思える。両教官で相談の上、日程についてはできる限りの改善を試みたい。後者については、展示会場などの設定は当初から決まっている、展示方法は作品制作の当事者に負う所から、授業改善をどの部分に求められているかについて色々解釈できる。このアンケートを実施するまでもなく、今後も受講生と緊密なコミュニケーションを取り、不満点をより詳細・明確に洗い出し改善を試みることを努めたい。最後の項目（感想等）は御礼を除いて「造形が好きなんだと改めて感じた」【多くの作品展示がまた見たい」「色々勉強できて良かった」であった。

結果報告書

授業科目名　芸術学演習
評価実施日　平成22年2月18日
担当教員名　小川　勝　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0

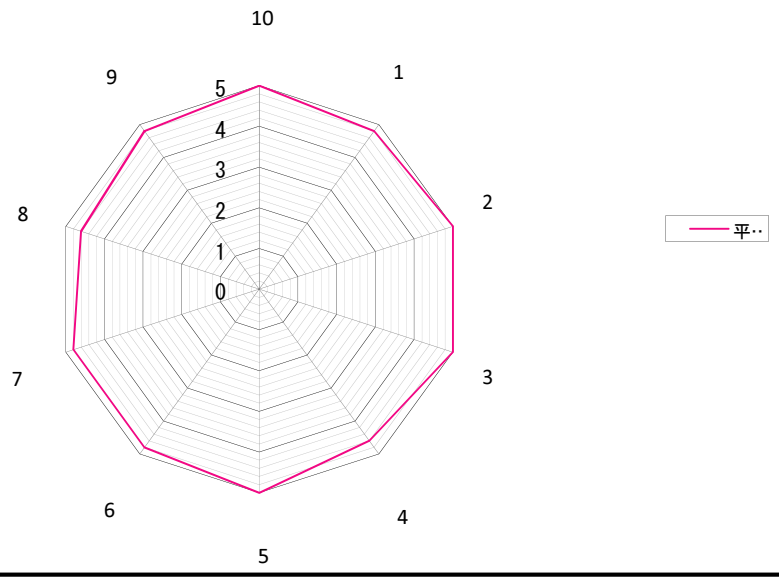


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　スポーツ・トレーニング演習
評価実施日　平成22年２月４日
担当教員名　南　隆尚　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2					4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2					4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



教員のコメント

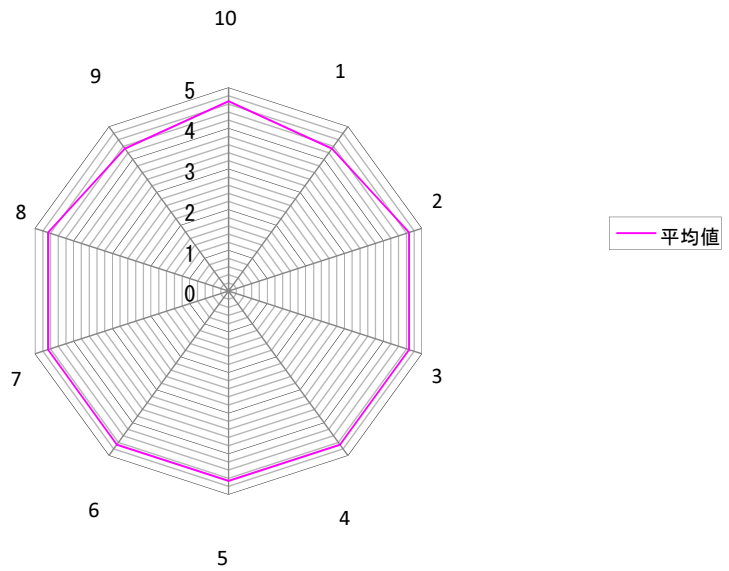
質問（4)「成績評価の方法の説明は，適切であった。」と質問(8)「板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。」の評価4が5名中2名あった。授業開始時に評価方法を明示したが，より具体的な取り組みが出来るよう示したい。また授業の中心がプレゼンテーションソフトを使用し，メモや図表を板書し，計画的な板書ができていなかったと考えられる。またプレゼンテーションの技術の向上も必要である。授業では少人数であったため，PCによるプレゼンテーションを行ったが，見づらくなったことが原因と考えられる。ただし少人数であり，大型スクリーンでの提示は適さないことから，より詳細な資料の提示や十分筆記できる時間を設けるようにしたい。

学生の感想としては，「実践的な内容が盛り込まれ，役に立った」という意見が多く，演習としては目的を達成していると考えられる。
本授業は，スポーツトレーニング演習という題目であり，前述の学生の感想からも，トレーニングの方法論を期待する向きがある。しかし内容的には生理学・心理学・スポーツ医学諸学とのつながりを鑑みながら，理論的背景を授業の中心におくことに学生との格差がある。学生への基本知識の習得を促す動機付けが必要である。

結果報告書

授業科目名　健康科学演習
評価実施日　平成22年2月3日
担当教員名　廣瀬　政雄　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	2					4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



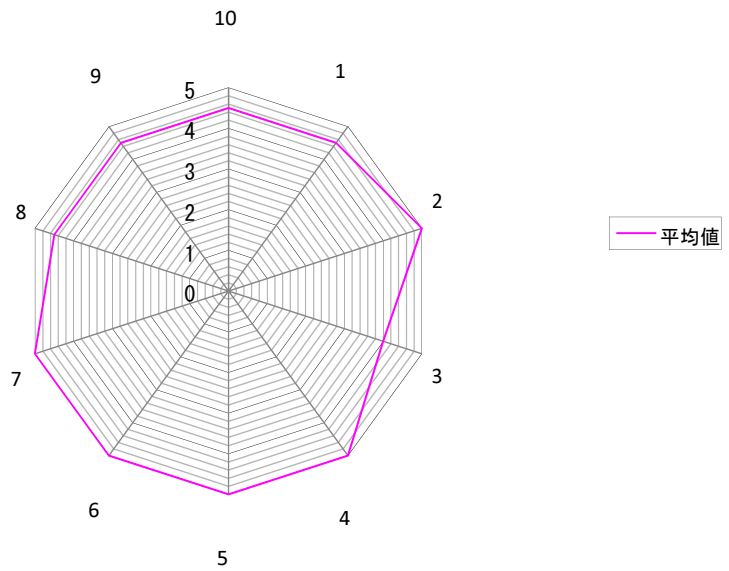
教員のコメント

解答した3人は前期に引き続いて受講した学生で、授業に対する興味と受講する意味を理解した学生であった。楽しく受講し、健康の知識や健康を増進するための実践力を、教科書的でなく理解するという本授業の目的を果たせたものと考えている。

結果報告書

授業科目名　コンピュータ科学演習
評価実施日　平成22年3月3日
担当教員名　宮本　賢治　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。		2					4.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



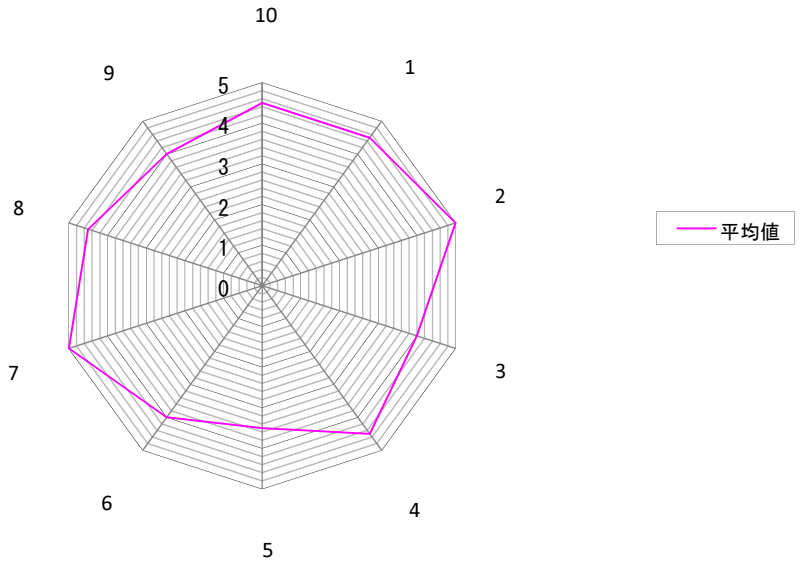
教員のコメント

受講者は2名と少なかったが、全般的に好評であった。ただし質問事項（3）の「教師の実践力の育成につながる内容であった」については2人とも4点をつけており、講義の内容を専門的な事項だけでなく、学校教育に関連した事項も採り上げるべきであったと反省している。本講義では、電子回路のシミュレーションを扱った。電気現象は視覚的に捉えにくいことが、学習者にとって理解しにくい要因の1つであり、それ故にシミュレーションソフトウェアは適切に活用すれば、電気現象の学習用教材として有効であると考えられる。来年度以降は、学習用教材としてのシミュレーションソフトウェアの活用方法などについても適宜、講義内容に盛り込みたいと思う。

結果報告書

授業科目名　デジタル制御研究
評価実施日　平成22年2月22日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		1				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		1	1				3.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2					4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



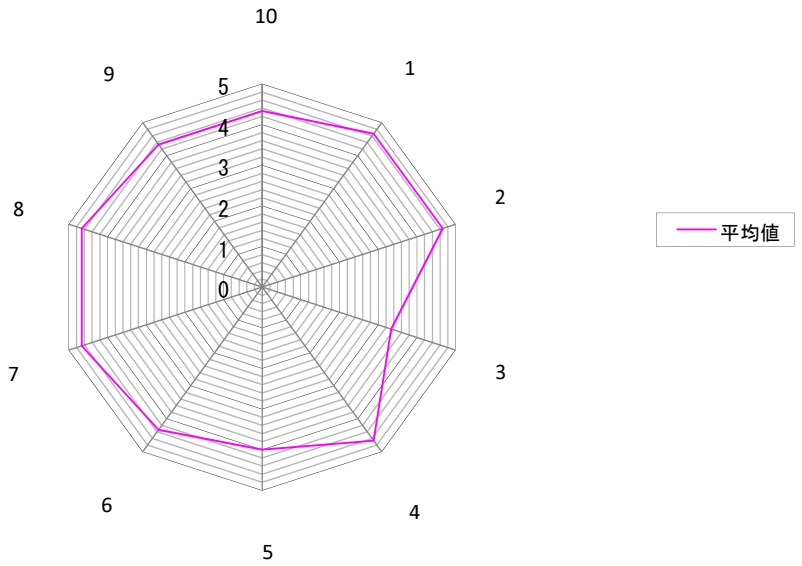
教員のコメント

本授業は受講者が2名であり，学生の理解状況を見て進度を適宜修正できたと思われる。ただ，一人は最終レポートを提出せずに単位を落とした経緯から判断しても，学生の「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」の評価が3では学生の自分自身への評価基準が甘すぎると思われる。この辺りは今後の授業評価方法の改善が必要と思われる。

結果報告書

授業科目名　画像情報処理研究
評価実施日　平成22年3月4日
担当教員名　伊藤　陽介　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		1	1			3.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1	1				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2					4.3



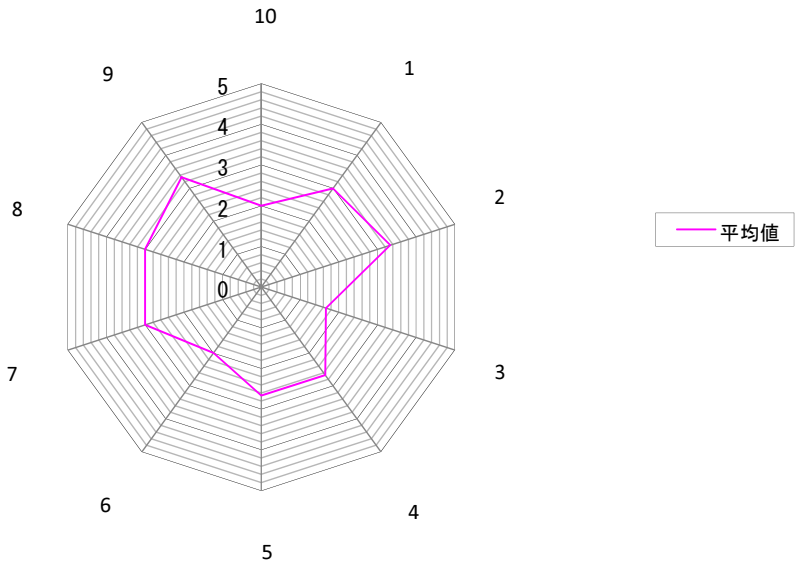
教員のコメント

3名の受講者数では客観的な授業評価は難しいが，総合的に見ると満足できる結果と思われる。授業で取り扱う内容がやや専門的であるため，教師の実践力育成につながりにくいような印象を与えているので，今後の授業方法ならびに教材などにおいて改善が必要である。

結果報告書

授業科目名　プログラミング演習
評価実施日　平成22年2月2日
担当教員名　林　秀彦　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。		1	1	1			3.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2		1			3.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。				2	1		1.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。			2	1			2.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。		1		2			2.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。			1	1	1		2.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。		1	1	1			3.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1	1	1			3.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	2				3.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。				3			2.0



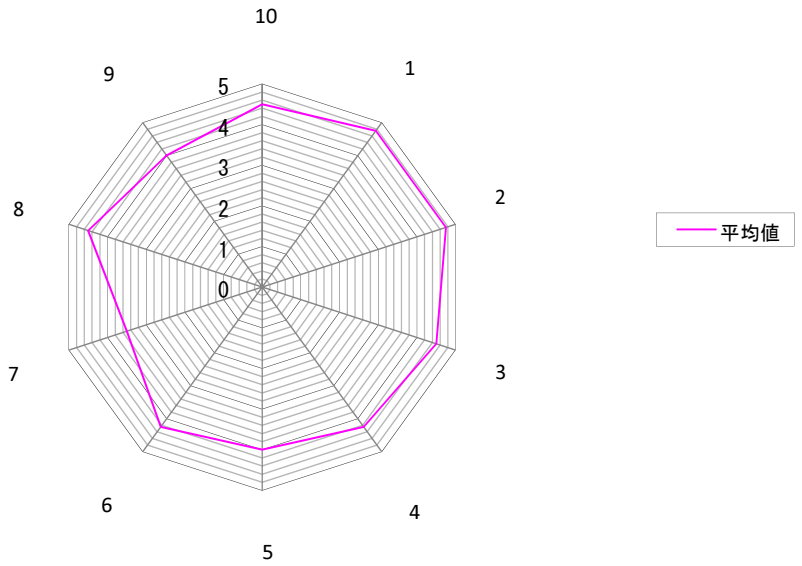
教員のコメント

本授業は，大学院生を対象としたプログラミング演習を実践する内容である。平成20年度の受講者は大学院におけるプログラミングの一般レベルの授業内容に対応できる受講者が多く，ある程度の合意が形成された中で授業を進めることができていたこともあり，評価結果についてはおおむね高い評点であった。そのため，平成21年度も同程度の受講者を想定した授業内容を計画していた。しかし，現職教員学生，ストレートマスター，いくつかのコースの混在等があり，受講者の経験や予備知識が昨年度と大きく異なることや，受講者間でのスキルや意識の差違も大きく，当初の計画通りの授業内容を行うことができなかった可能性が考えられる。評価結果には，これらのことが反映されていると考えられる。これまでに，プログラミングの授業実践についての研究では，多人数の授業での実践事例を論文誌に掲載している。それは「創造的プログラミング授業環境の構築と実践　－情報系を選考としない学生を対象とした技能伝承の作り込み－」というタイトルの研究であり，この事例については所属が同じである学部学生を対象とした多人数を対象とした授業実践であった。この実践では，多人数によるグループワークの実践を効果的に行っていたが，今後は，少人数でかつ受講者間の意識の差が大きい場合の対応を工夫するなど，新たな方法論を検討していく予定である。

結果報告書

授業科目名　情報応用演習
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　曽根　直人　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1	1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1		1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1	1	1			3.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3		1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1		1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2					4.5



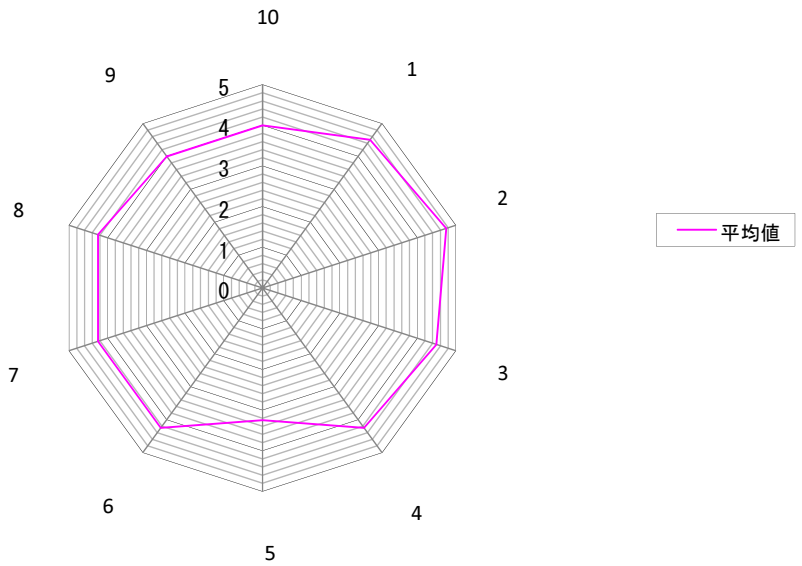
教員のコメント

受講者が4名と少数なため，受講者の興味や関心に沿ったトピックも多く取り入れより積極的な取り組みを期待した。アンケートの改善点への記述には「トピックが多方面すぎたような気がします」，「もう少し実習を多く，90分では実習時間が足りないと思います。2週に一度180分という設定も」，「ネットワーク機器やインストールなどで授業がなかなか進まなかったので進み方を工夫してほしい。」といった意見が書かれていた。授業で利用したネットワーク機器は毎時間教室へ移動させ接続，設定を行っていたため，準備に時間がかかっていたことは指摘の通りなので次年度からは改善できるように利用する機材や場所，時間を工夫したい。授業の良かった点についてはネットワークの基礎的な部分が学べたなどの記述があり，授業内容に興味を持って受講していたことがうかがえる。興味を持たせるためのトピックと基礎的な学習の部分のバランスを見直し，授業の改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　情報技術研究
評価実施日　平成22年2月22日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	3					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1		2	1			3.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2	1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2	1				4.0



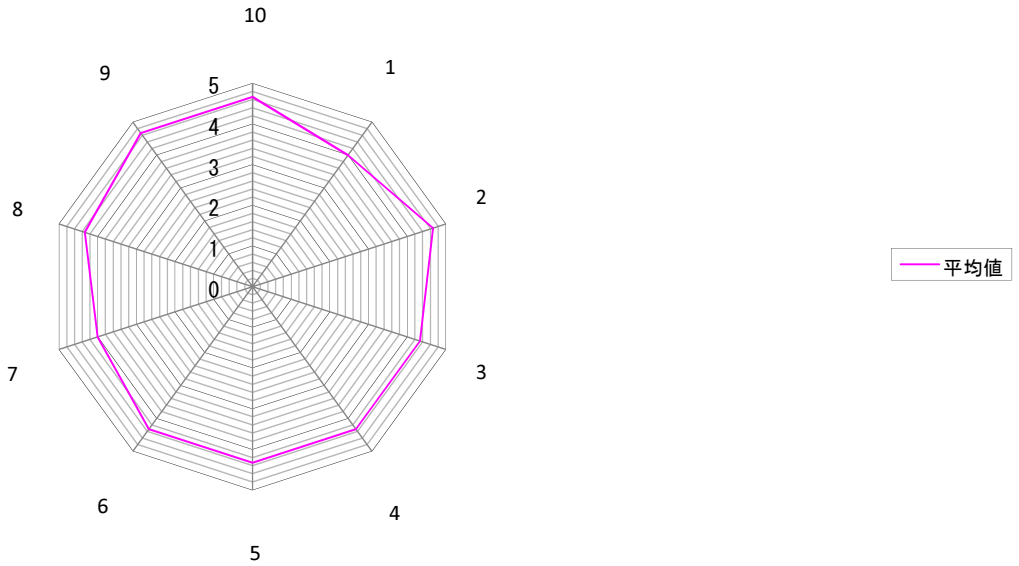
教員のコメント

本授業では，実際の機器を使用しながら情報システムの動作を理解する目的で実施しており，学生の評価は概ね良かったと思える。ただ，評価値が全て最高値の学生がいる半面，一部授業進行の速さについていけない学生もいるようで，機器を使用した授業では全員に満足できる授業を実施することの難しさがある。今後の改善点としたい。

結果報告書

授業科目名　衣生活学演習
評価実施日　平成22年2月2日
担当教員名　福井　典代　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1	1				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2		1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2		1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1	1				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



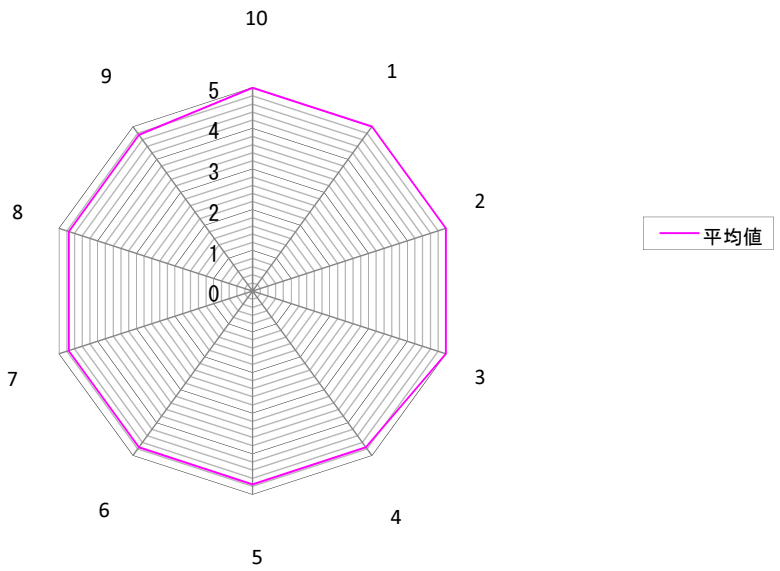
教員のコメント

この授業では、オリエンテーション時に授業概要を提示して受講者の要望を聞き、具体的な授業内容を決定している。家庭科の専門科目を履修するにあたり、学部で習得した知識の幅に隔たりがあるための変更である。その結果、被服の専門的な内容にとらわれることなく、修士論文のアンケート調査に活用できる統計学の基本を、一般的に使用されるソフトを用いて学習した。少人数での授業だったので、各自パソコンを使用して統計処理を行った。個別に丁寧に対応したため評定平均値はすべて4以上となり、おおむね良好な授業評価が得られた。自由記述を見ると、この授業でよかった点として「説明が丁寧」、「少人数ということもあり、個々の進度に応じて指導してくれた。実際に役立つ知識を得ることができた。」という記述がみられた。改善すべき点は記述されていない。その他、感想として「データ分析は奥が深い。」と感じており、この授業に興味を持ってくれた様子が読み取れる。今後もこの方針で授業を進めたい。

結果報告書

授業科目名　食生活学演習
評価実施日　平成22年2月22日
担当教員名　前田　英雄，西川　和孝　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



教員のコメント

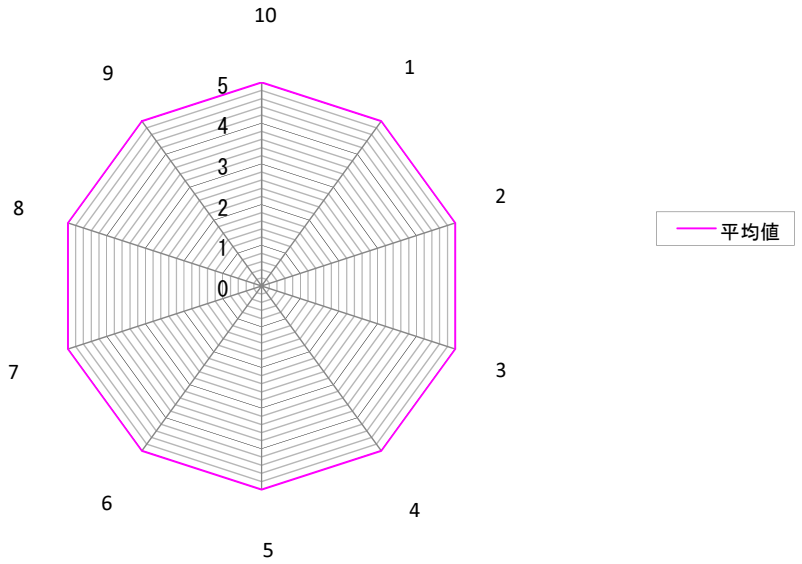
受講生は4名であった。授業では、テキストや参考書を用いずにパワーポイントを使用し、その内容をプリントして配布した。

評価については、概ね満足するものであったと思われる。
今後も、学生の理解状況に合わせた授業を実施するよう努力したい。

結果報告書

授業科目名　実践英語演習Ⅰ（活用英語）
評価実施日　平成22年２月23日
担当教員名　兼重　昇，ｼﾞｪﾗｰﾄﾞ ﾏｰｼｪｿ，小澤　大成　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



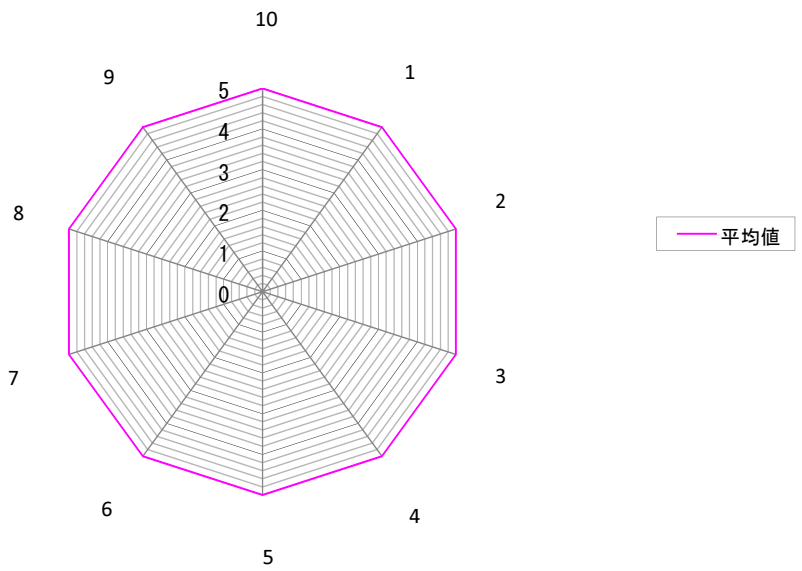
教員のコメント

本授業に関しては，少人数であったこと，他の授業との関連性の高い授業であったことを考慮すると，一授業を単体で評価することは困難である。しかしながら，受講者の意見は，全て高評価を得ることができ，担当教員全体の授業について一定の成果が得られたことがわかる。今後も，受講者の実態に合わせながら授業を進めていくことを予定している。

結果報告書

授業科目名　実践英語演習Ⅱ（現地活用英語）
評価実施日　平成22年2月23日
担当教員名　兼重　昇，ｼﾞｪﾗｰﾄﾞ ﾏｰｼｪｿ，石村　雅雄　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



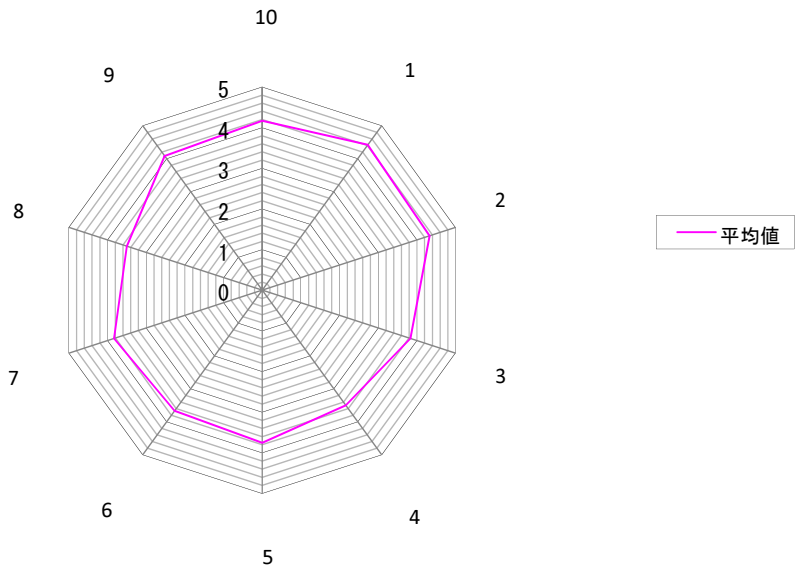
教員のコメント

本授業は，少人数での授業運営が行えたことと，他の授業との関連性をもった活動が中心のため，受講者の評価に関する解釈は困難である。しかしながら，受講者の意見は，全て高評価を得ることができ，担当教員全体の授業について一定の成果が得られたことがわかる。今後も，受講者の実態に合わせながら授業を進めていくことを予定している。

結果報告書

授業科目名　教育哲学演習
評価実施日　平成22年2月23日
担当教員名　木内　陽一　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	5	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	5		1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	4	5				3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3	4	1	1		3.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	3	6				3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	5	1			3.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	5	3	1			3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1	7	1			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	2	1			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	4	3				4.2



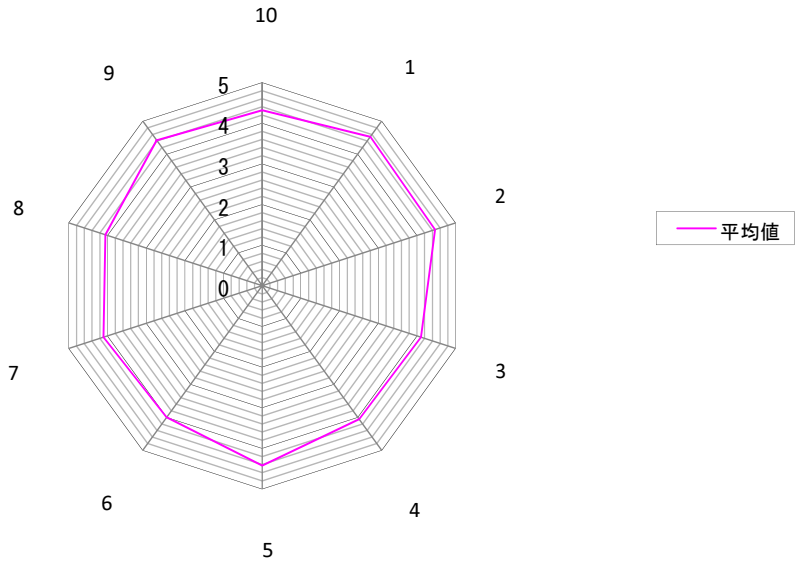
教員のコメント

前期の講義では、西田幾多郎の『善の研究』を精読し、初期西田哲学に対する理解を深めた。後期の演習では、これに引き続いて、中期・後期の西田の代表的な論文、さらに田辺元、左右田喜一郎を始めとする西田批判の論文を講読した。受講者は少なくとも、西田哲学に対する親しみは、持っていただけたのではないかと思う。受講者の評価をみると、おおむね満足していただけているように思う。受講者からは、とくに以下の三点の指摘があったので、今後の課題としたい。第一に、資料の配布を二週間以上前にしてほしいということだ。本演習では、一週間前に印刷された資料をくばっていたのである。まことにもっともなことで、出来るだけ早く配布して、受講者が資料を十分検討できるように気をつけたい。第二に議論の仕方についてである。受講者数は12名なので、そのままで議論をしていたが、受講者からは、より少ない4－5名でまず議論して、そこで出た意見を今度は全体で討議するという方法が提案されている。さらに少なく2－3名で、まず意見を交換するということでもよいかもしれない。また、批判を受けることになれていない、という感想もあった。議論の仕方には十分に気をつけていきたい。大きな課題として受け止めている。第三に、(西洋)哲学に対する知識が少ないために、演習に積極的に参加できなかったといのである。現在では、「新書」のいくつかの初心者向けの哲学入門がでているので、次回からは受講生に参考・関連文献も気をつけて紹介したいと思う。授業評価で最も評価の低いのは、「成績評価の説明」に関する項目である。しかし「哲学」の「成績」とは何だろう。受講生自身に尋ねてみたい気がする。

結果報告書

授業科目名　教育認知心理学演習
評価実施日　平成22年2月16日
担当教員名　皆川　直凡　　回答者数　19　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	7	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	7		1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	6	4	1			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	8	5				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	9	1				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	10	3	1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	9	4				4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	8	5				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	7	2				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	8	1	1			4.3



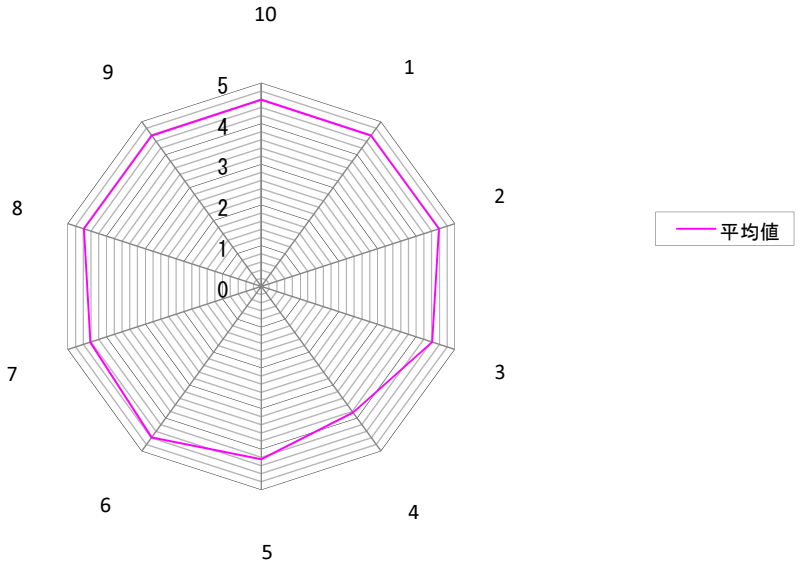
教員のコメント

人間形成コースの専門科目であり，特に心理学分野において課題研究を行う学生に向けた授業構成をおこなっており，他分野・他コースの学生には必ずしも容易ではない授業内容である。こうした個人差が，全項目の評価平均値が4.0以上であり，授業への総合評価の平均値も4.3とかなり高いのに対し，3つの項目および総合評価において，評価を2とした受講生がそれぞれ1名いたことに表れていると考えられる。項目(1)～(9)の個人別評価平均値を算出したところ，総合評価が2であった1名の評価平均値は3.2，総合評価3の1名のその値は3.4であったのに対し，総合評価4の8名の評価平均値は3.6～4.2，総合評価5の9名のその値は4.3～5.0にそれぞれ分布していた。この分析は，個々の項目への評価の集積が総合評価となっていることを表していると同時に，評価の個人差の頑健さを表している。専門性の高い科目であればあるほど，全員を満足させることは難しくなるが，専門科目としてのレベルを落とすことなく，全体の理解度・満足度を高めることを目指して，引き続き授業改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　比較教育社会学演習
評価実施日　平成22年2月26日
担当教員名　伴　恒信　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	5					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	5	3	1			3.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	5	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	3	1				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	3	2				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	3	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	5					4.6



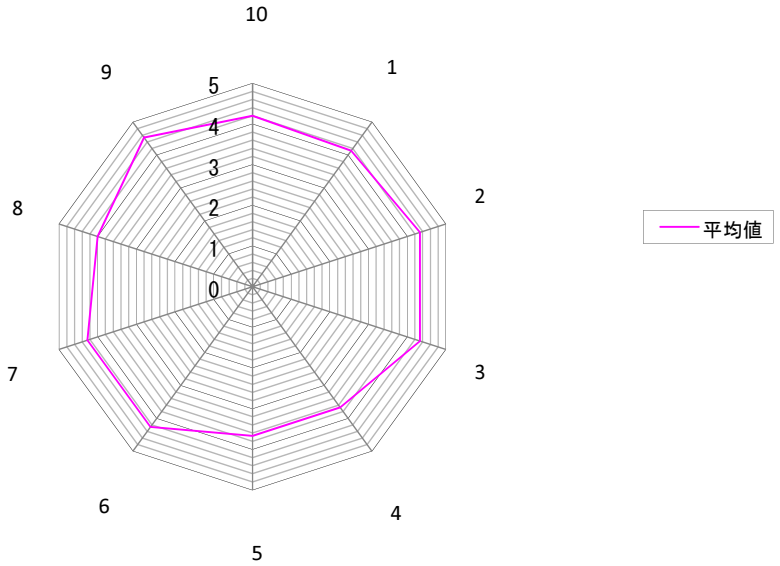
教員のコメント

本授業の総合評価は、平均で4．6点、12名中7名が5の評価点をつけ、極めて好評だった。良かった点としても、「今後、修論を考えていく上で参考になりました。」「人の内面の感情の動きを知り、深い部分を浮きぼりにすることができた。本質的な部分を知ることができた。」などの感想で、大いに役立った様子が分かる。しかし、大学院教務委員会の承認を得て、本授業は今期で終了する。

結果報告書

授業科目名　総合学習カリキュラム開発演習
評価実施日　平成22年2月23日
担当教員名　村川　雅弘　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	7	3				4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	8	1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4	3				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	7	5	1			3.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	7	5	1			3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	7	2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	7	2				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	7	4				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	5	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	6	3				4.2



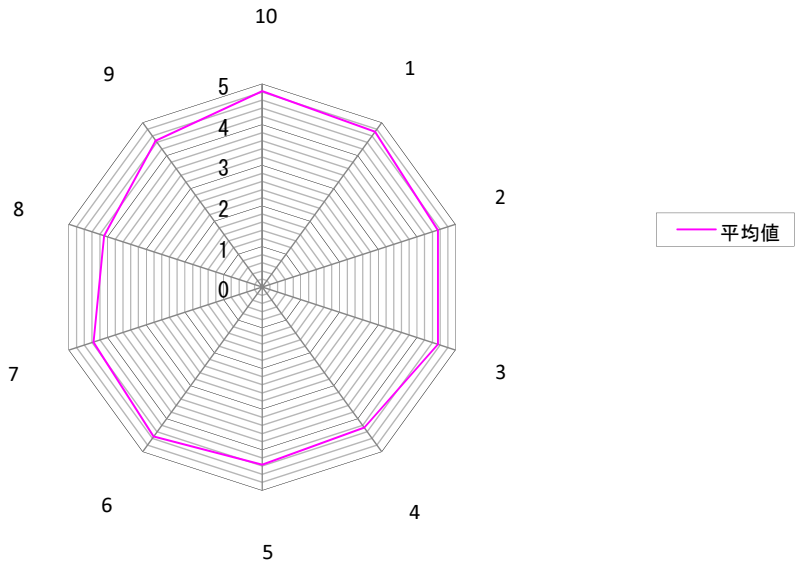
教員のコメント

自由記述では，肯定的な意見としては，「様々な事例を知ることができたこと」(6名)が最も多く，「総合的な学習の著名な実践家に会えたこと」(2名)や「総合のことがよく分かった」(2名)，「ワークショップ形式がよかった」(2名)である。「各自のレポートを共有できたのがよかった」も1名いる。一方，否定的な意見としては「指導計画に従って欲しい」(3名)，「課題が多すぎる」と「実際の授業を全員で参観したい」が各1名ずつである。これらの記述と上記の量的評価結果とを突き合わせて次のように評価・改善を行いたい。①(2)(3)(7)はいずれも4.3と高い評価を得ているので，主に学校現場との共同研究途上で入手した好事例を今後も取り上げ，紹介し，単元づくりや学習指導等に必要な教師の手だてについて具体的に考えさせていきたい。②(1)の授業概要や計画については，比較的高い評価を得ているが，自由記述には否定的な意見もある。できるだけ最新の事例を取り入れようとしたために評価は分かれたものと考えられる。今後は展開を意識しつつも最新事例や情報を取り上げていきたい。そのことは，授業の初日を伝えておきたい。③(4)の成績評価については，チームでの活動があったために，個人の評価があいまいになってしまっている。たぶんチームの中でも活動状況における個人差を感じながらも同等に評価されたことに対する疑問だと思われる。チーム作業にどの程度取り組んだのかといった自己評価や他者評価を組み入れ，成績評価に反映してみたい。④学校現場においては，特に総合的な学習の年間指導計画や単元計画の作成及び実施は協同的に行われることが多いので，本演習においても今後もワークショップ型の作業を取り入れていきたい。⑤ゲストの酒井達哉教諭(兵庫県)は総合的な学習に関しては日本でも有数の実践家である。毎年，学部の授業に来てもらっていた。21年度の学部授業(有効回答数80名)のアンケート結果では酒井教諭に来てもらったことの評価は4.9と極めて高い。22年度は予算削減により依頼はできていないが，学生のために自己の研究費等で何とか呼びたい。⑥課題の多さについては，総合的な学習では創ることがとても要求される。課題の多さを初日に伝え，納得してもらった上で受講に臨ませたい。

結果報告書

授業科目名　環境教育特論Ⅰ（教材開発）
評価実施日　平成22年２月25日
担当教員名　近森　憲助，西村　宏　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	3					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	5					4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5					4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	8					4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	5	1				4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	5					4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	5	1				4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	5	1	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	2				4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	2					4.8



教員のコメント

「（7）の資料の適切性」及び「（8）の視聴覚機器及び板書」に関する項目での評価がやや低いものの、すべての質問項目の平均値は4以上であり、総合評価もほぼ5に近い値となっている。このことは、受講生が満足できる授業であったことを示している。平成21年度の本授業においては、受講生との対話やディスカッションを中心とする授業を展開したことがこのような結果に反映されているものと思われる。

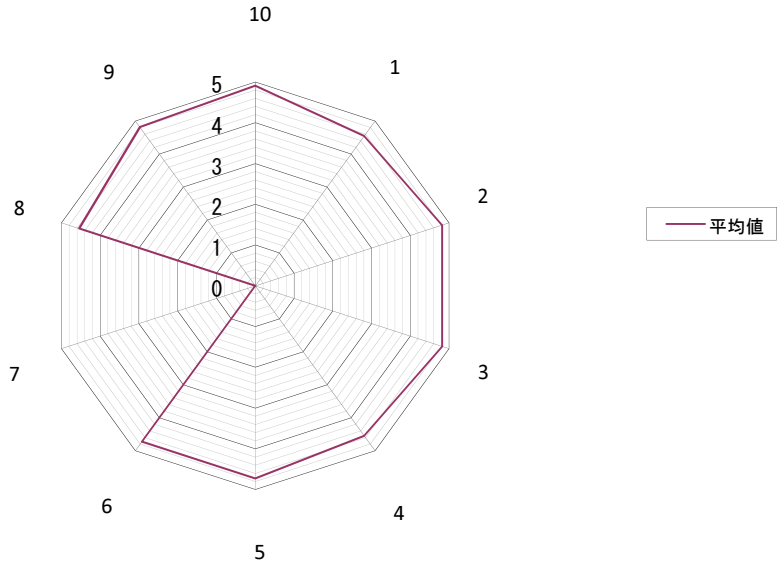
以上

結果報告書

授業科目名　臨床心理学演習A～F
評価実施日　平成22年2月18日
担当教員名　今田　雄三，葛西　真記子，山下　一夫，吉井　健治，久米　禎子

回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	3	1				4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2					4.8
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	3	1				4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	9	1	1				4.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	9	1	1				4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。						11	
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	3	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	1					4.9



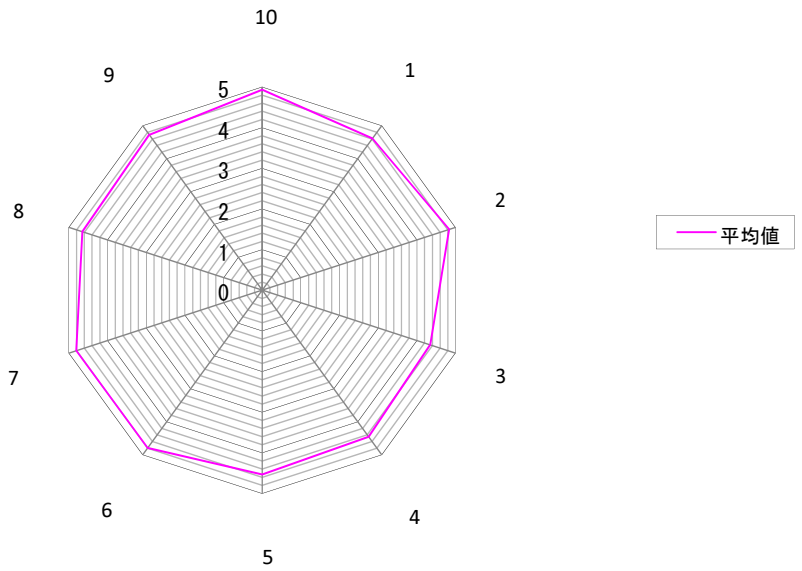
教員のコメント

全ての質問項目において評価の平均点は4点を上回っていた。特に総合評価「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」に関しては4.9点を獲得しており、本授業は受講生から非常に高い評価を得られたものと考える。アンケートの自由記述からは、少人数のグループに分かれて演習を行い、活発な意見交換が出来たことや、教員の経験を踏まえたコメントが参考になったことが伺えた。

結果報告書

授業科目名　学校精神保健学演習
評価実施日　平成22年2月12日
担当教員名　今田　雄三　　回答者数　44　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	29	13	2				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	37	5	1			1	4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	26	10	5		2	1	4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	24	16	4				4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	29	9	4	1		1	4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	34	9				1	4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	36	4	2			2	4.8
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	31	9	3			1	4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	32	12					4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	41	3					4.9



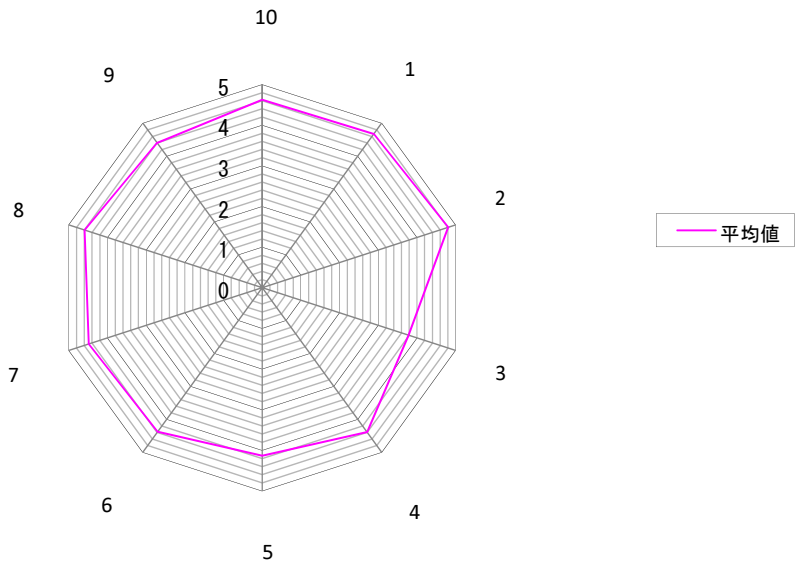
教員のコメント

全ての質問項目において評価の平均点は4点を上回っていた。特に総合評価「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」に関しては4.9点を獲得しており、本授業は受講生から非常に高い評価を得られたものと考える。ただし「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しては1点と評価した受講生が2名あった。これは本授業で取り上げた事例が学校内での対処の実例ではなく、児童思春期外来での面接事例であったことと関係しているように思われる。今後は、医療機関における対処の実際を知ることが、こころの健康への配慮が必要な児童生徒と関わる上での教師の実践力の育成にとって役立つことを改めて授業内で周知していきたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理査定演習Ⅱ
評価実施日　平成22年2月17日
担当教員名　葛西　真記子　，佐藤　亨　　回答者数　39　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	25	12				2	4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	30	7				2	4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	9	5	6	2	2	3.8
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	16	3			3	4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	15	14	6	2		2	4.1
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	19	14	3	1		2	4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	22	11	4			2	4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	24	11	2			2	4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	12	5			2	4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	26	9	1	1		2	4.6



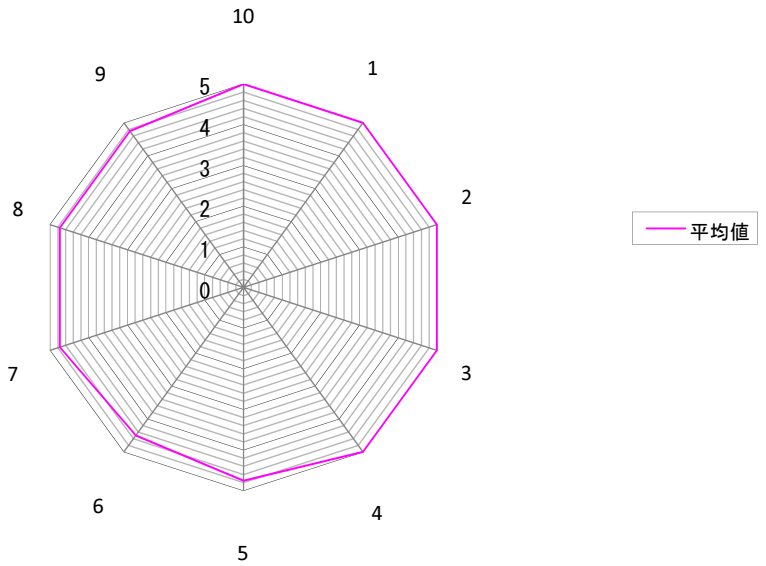
教員のコメント

質問項目の総合評価は、4．6であり、ほとんどの院生が「よかった」と評定していた。他の項目で、平均点の低かった項目は、「教師の実践力の育成につながる内容であった」というものであるが、本演習は、投影法の一つであるロールシャッハテストの実施と解釈に関するものであり、このテスト自体を学校現場で、教師が行うことはないと思われるので、このような結果となったと推測できる。ただ、授業の中では、できるだけ、学校現場でもいかせるように、児童生徒であったら、どのような反応となるか、どのような反応がでると対応に注意する必要があるのか、どのような児童生徒に受けてもらうと役に立つ結果が得られるのか等についても説明を行った。そのため、「よかった」「ややよかった」をあわせて65％の回答になっていたと思われる。自由記述の結果からは、2名の担当者それぞれに別々に考察すると、葛西に対しては、「内容がわかりやすかった」「テンポがよかった」「グループワークが勉強になった」「発言しやすかった」という肯定的なものと、「半期では短すぎる」「スピードが速すぎた」「内容が多すぎる」という全体的な内容の難しさについてのものと、「部屋が寒かった」「1限が早すぎる」という環境等に関するものがあった。佐藤に対しても同様に、「丁寧でよかった」「経験に基づいた説明がわかりやすかった」「具体的でよかった」という肯定的なものと、「時間が速すぎた」「分析解釈のレジメがほしかった」「難しかった」というものがあった。全体的に内容が多く、ついていくのが難しかった院生も存在していたことが明らかとなったので、時間配分、内容の厳選等が、今後の課題である。また、グループワークなどで積極的に参加するのが、院生の理解にもつながっているようなので、今後も取り入れていきたいと思う。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育指導特論演習
評価実施日　平成22年2月18日
担当教員名　大谷　博俊　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3		1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



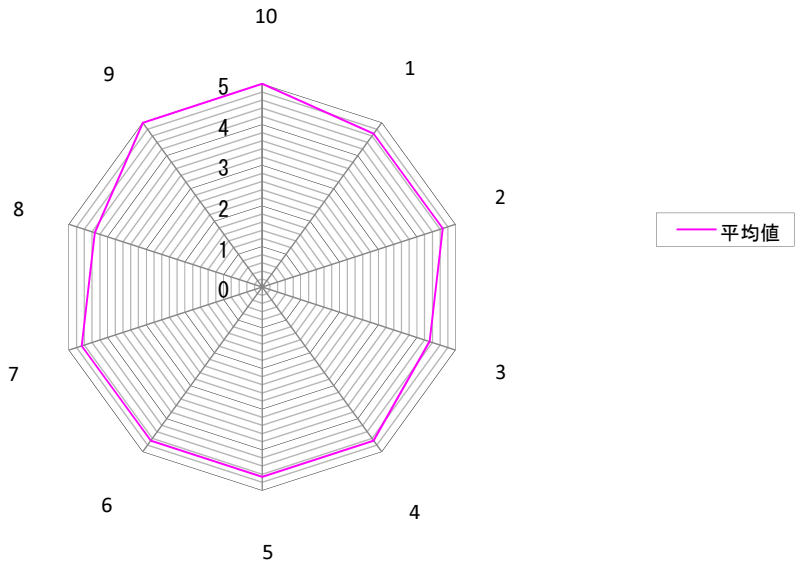
教員のコメント

総合評価を見ると全員が5点と評価しており、受講生の講義に対する満足度の高さが伺える。また授業内容に関しても全ての項目において、全員が5点と評価しており、受講者のニーズに合致した内容であったと判断できる。また本講義の特色として、複数の演習形式を計画的に取り入れており、そのことが「教師としての実践力の育成」に繋がったと判断されたのではないかと考える。今後もここで取り上げた演習形式を参考にしながら、講義を計画していきたい。ただ受講生の持っている知識や経験に差があることも事実である。今後はその点も踏まえつつ、講義の目標を達成するための専門的内容をどのように設定するのかについて、改めて検討したいと思う。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育臨床支援技法演習
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　高原　光恵　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1				2	4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				2	4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				2	4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1				2	4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1				2	4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				2	4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1				2	4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2				2	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					2	5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3					2	5.0



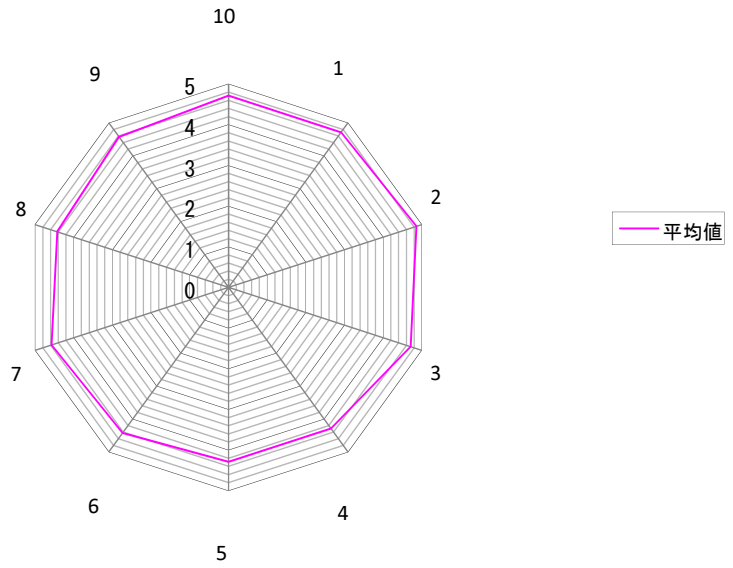
教員のコメント

少人数の受講者であったため、評価する際にはかなり遠慮されたように感じる。少人数の良さとして、個々の読解力に合わせて解説したり、受講生同士の議論を細かく実施したりすることができた。海外の先進的取り組みについて具体的に扱った内容であり専門性を高めるには有効と思われるが、今後の課題として、さまざまな手法を実践に移す際の具体的な課題とその解決策など、より実践力につながる内容を取り入れて行きたい。

結果報告書

授業科目名　発達障害児支援医学演習
評価実施日　平成22年2月12日
担当教員名　津田　芳見　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3	1				4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3	3	1				4.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	4	2	1				4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1	1				4.6
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2	1				4.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1				4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



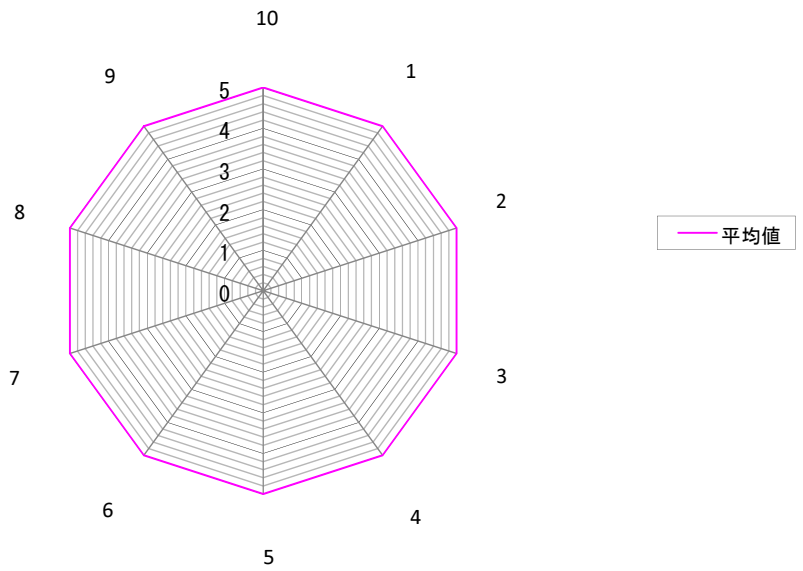
教員のコメント

教員のコメント
授業概要については、目的･授業計画は明確に示されていたという評価であったが、成績評価の方法がやや評価が低かった。授業の内容については、専門性を高めるでは評価が高いが、教育に関する見方ということでも、高い評価であった。授業への取り組みは、質問などについては、まずまずの評価であるが、出席率では、改善の余地がある。授業の進め方においては、学生参加を重視していたので、それについては、評価が高かった。この授業は、本来、基礎的なことを学んだ上で、受けるべきものであるが、入学して間もない学生もうけるため、学生側の理解度、参加の積極性についてはバラツキが多いと考えられる。しかし参加型のプレゼンテーション能力を重視した進め方は教育には有効と考えている。

結果報告書

授業科目名　社会資源開発運用・連携論
評価実施日　平成22年２月９日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



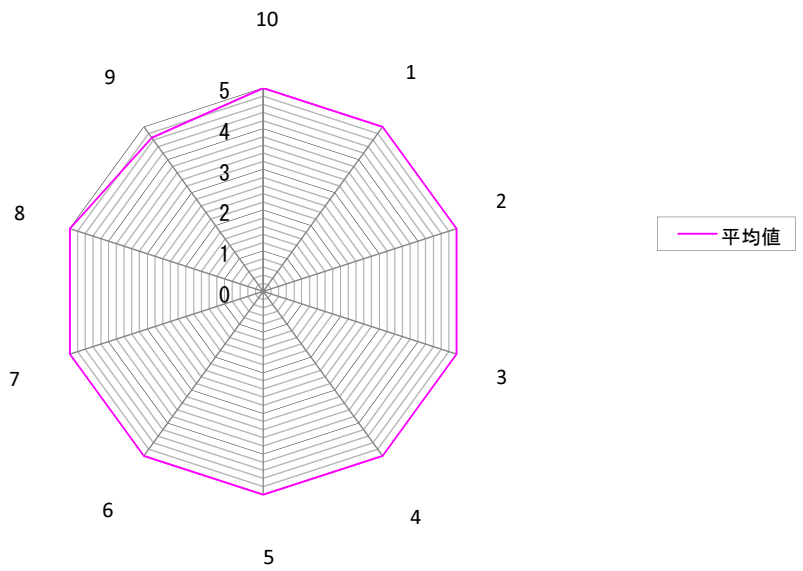
教員のコメント

特別支援教育コーディネーター分野に所属する大学院生のみの授業であり、毎週、出された課題について予習し、授業において発表、協議を行っている。この中で特別支援教育コーディネーターとして、自ら社会資源を開発する力、問題を解決する力等を養うことを目的としているが、受講者は、毎週のレポート作成に努力し、校内委員会の促進につながるプレゼンテーションも工夫が見られるようになった。これらのことから、今後もこの方法で授業を進めたい。改善点としては、協議を深めるための工夫と、学校現場の課題にあった課題内容をいち早く取り入れるなどの工夫が必要と考える。

結果報告書

授業科目名　国語科教育学演習
評価実施日　平成22年2月16日
担当教員名　村井　万里子　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



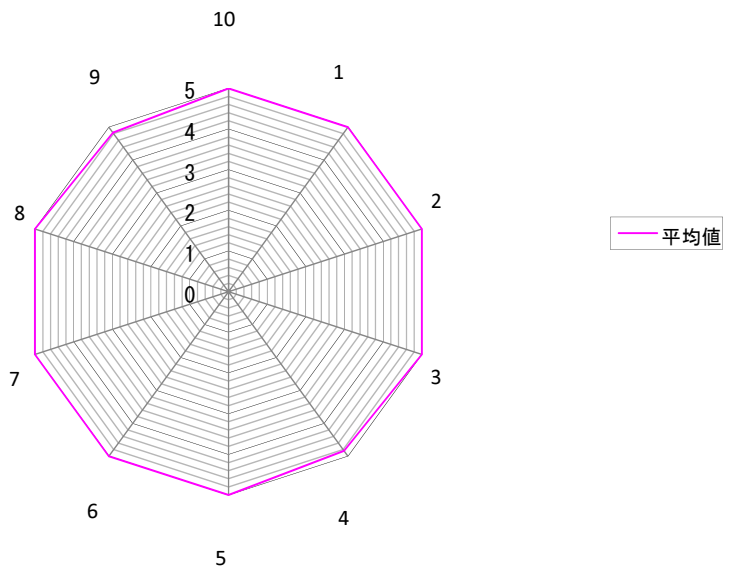
教員のコメント

前期の「国語科教育学研究」で国語科教育の基礎となる言語論と作文による発達系統・書くことの評価演習を行ったのを受け、後期の演習では受講生自らの問題意識と必要観に則った国語科教育学文献演習を行った。いずれも熱心な取り組みがなされた。

結果報告書

授業科目名　国語科授業演習
評価実施日　平成22年2月4日
担当教員名　幾田　伸司　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



教員のコメント

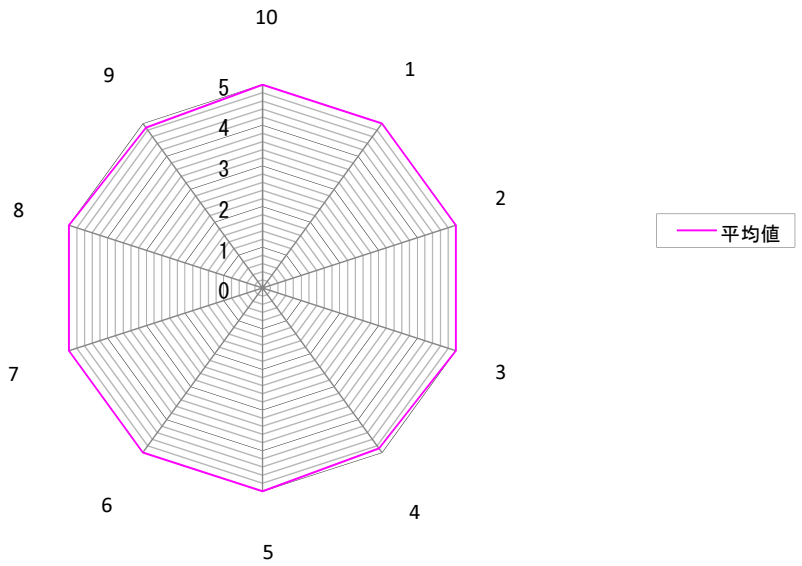
本授業では、国語科教育の優れた先行実践を取り上げ、それらの実践が依拠する思想・理論と実践の実際について演習を行った。受講者が少人数だったこともあって2回に分けて発表を行ったのだが、「授業の方法にばかり目がいっていたのだが、理論と実践の両面でという観点から見ることで今まで見えていなかったものが少しずつ見えるようになった」、「自身の演習発表に無理のない深化が生まれてきた」など、肯定的評価をいただけた。昨年度までと同様の形式であるが、次年度以降も継続して採用したい。

全般的には過分な高評価であったが、これは受講生の方自身が演習の準備でも、ディスカッションでも、主体的に学び考えようとする姿勢をもって取り組まれたからこそ生じた結果であろう。授業者としては、個々の演習発表に沿って有益な議論を組織・進行できるように精励していきたい。

結果報告書

授業科目名　国語科教材開発演習
評価実施日　平成22年２月22日
担当教員名　余郷　裕次　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	8						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1					4.9
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	8						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	8						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	8						5.0
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8						5.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1					4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8						5.0



教員のコメント

現職の院生3名を含む8名の院生で演習を進めた。個人が自分の課題を選んでたっぷり時間をかけてプレゼンテーションすることができた。演習としては10名前後の人数が適正と考えるが、人数が増えた場合、グループ発表という方法もあるので、受講生が増えることを望んでいる。

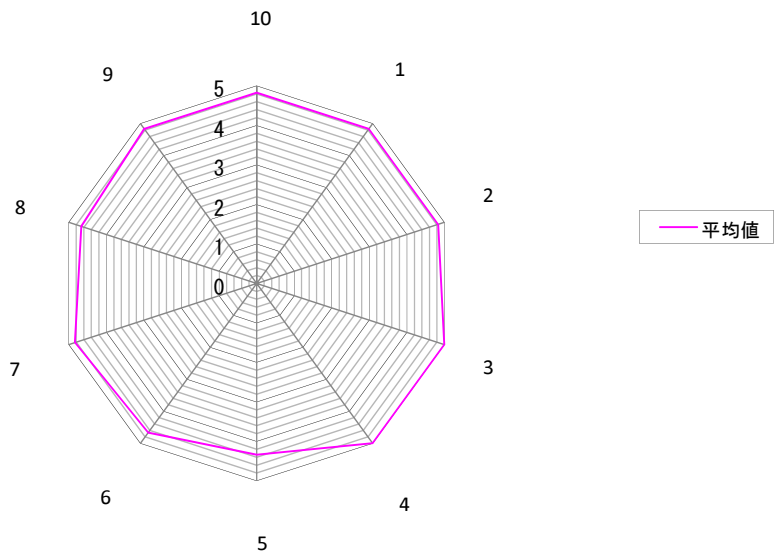
受講生からのコメントは、「受講生の皆さんが、それぞれに選ばれた絵本の考察がとても深い内容だったので、改めて絵本の素晴らしさを実感しました。」、「皆さんの発表、研究される姿勢や、絵本の研究に対する向き合い方についても刺激を受けました。」、「授業の雰囲気がとても良く、発言もしやすく、楽しく主体的に受けることができ、大変勉強になった。」など、好意的なものばかりであった。少人数の演習のメリットが生かせたと考える。

今後、受講生の増加を期待したいが、評価を下げないように努力を続けたい。

結果報告書

授業科目名　英語科教育演習Ⅰ
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　伊東　治己　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	4					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



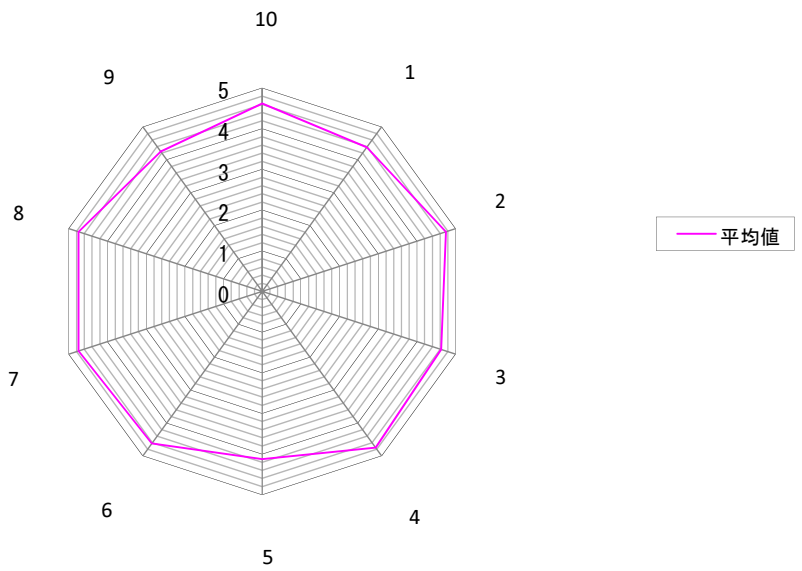
教員のコメント

本授業の目的は，英語のリーディング指導に必要な三つの主要なインターラクション、つまり、①学習者内部でのBottom-up ProcessとTop-down Processのインターラクション，②テキスト内部での部分と部分、部分と全体の間のインターラクション，③教室内部での技能・教材・個人の間でのインターラクションに焦点を当てながら、Interactive Reading Instructionの理論と実践について、基本文献の講読とワークショップ等を通して、多角的な考察を加えていくことであった。本授業に寄せられた受講生からの「授業の内容について」の評価結果のうち，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」に対して受講生全員が5の評価を下していることから判断する限り、受講生の教育実践力を高める上で一応の成果が得られたものと考えることができる。具体的な成果としては、授業のメインテーマであるInteractive Reading Instructionの理論について原書講読とそれに基づく講義を通して一定の理解を受講者に授けるとともに、具体的な教材をもとにした授業実践方法についても受講生の理解を深めることができたと思われる。「教員の授業の進め方について」に関しては，「(5)授業の進む速さは，適切であった。」に対しては6名中4名の受講生が4の評価を下しており(平均値が4.3)，今後受講生の反応を見ながら，必要があれば改善していきたい。なお，授業全体の「総合評価」の平均は4.8(6名中5名が5の評価を下している)で，上で述べた本授業の目的は概ね達成できたと考えられる。優れた理論ほど実践的なものはないというのが持論であり、今後も実践につながる理論と理論に支えられた実践の連係を模索していきたい。

結果報告書

授業科目名　英語科教育演習Ⅱ
評価実施日　平成22年3月3日
担当教員名　山森　直人　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	3	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	2					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	3	2				4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	3					4.6



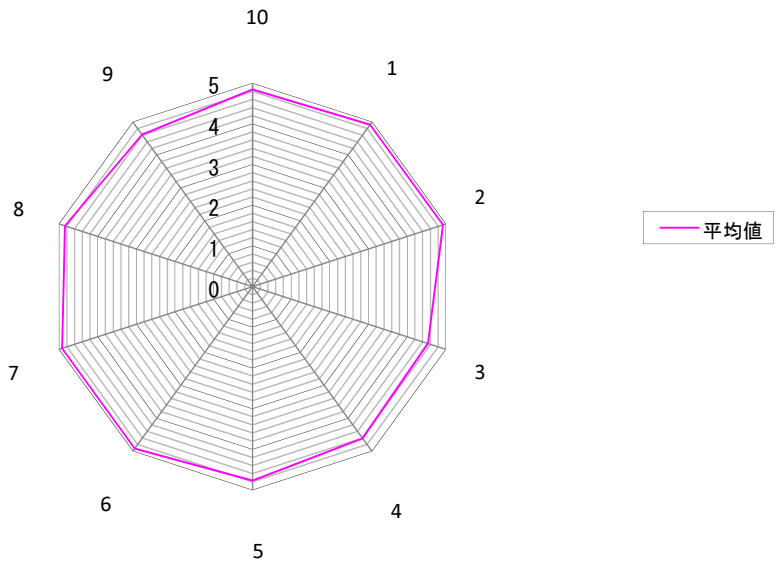
教員のコメント

全項目の得点が4点を上まわり，総合評価（項目10）の得点も4.6であったことから，本授業はおおむね良好だったと考えられる。同年度より，前年度までの授業内容に新たな内容を加えたため，はじめに予定していた内容を十分にカバーすることができなかった。そのことが項目1（授業概要）および項目5（授業進度）の得点の相対的な低さに表れていると推察する。また，本授業評価にはあらわれていないが，新たな内容を加えたため授業内容の一貫性が受講生にとってはわかりにくい部分もあったように思う。以上の点を今後改善していきたい。

結果報告書

授業科目名　現代の諸課題と社会認識教育
評価実施日　平成22年2月12日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	3	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	10	3					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3	1				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	2					4.8



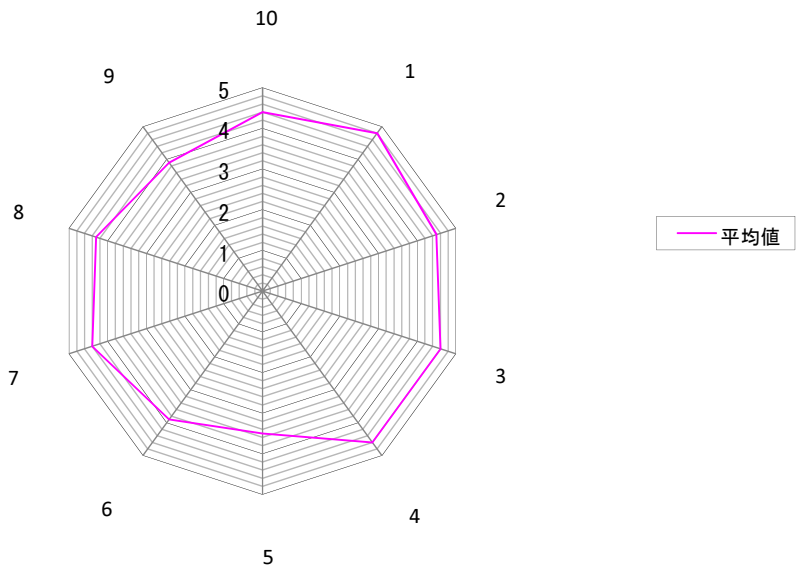
教員のコメント

いずれの項目についても高い評価を得ることができた。引き続きこの評価を持続できるよう精進したい。

結果報告書

授業科目名　社会科授業研究
評価実施日　平成22年2月22日
担当教員名　梅津　正美　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	4					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	4					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	2	3	1	1		3.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	4	2	1			3.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	4	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	3	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5	3				3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	4	1				4.4



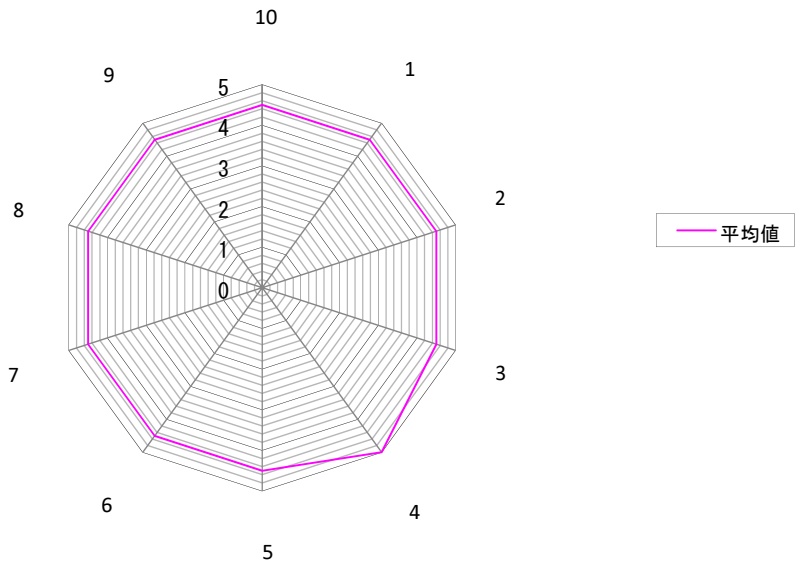
教員のコメント

本講義は，受講学生の社会科授業力，特に授業の事実を分析し評価し，改善案を提案できる能力の育成を目標に展開した。今学期は，「県統一大会」レベルの学校の授業研究を事例に、授業の構成と分析，及び類型に関する講義に加えて，受講生による授業の構想・実践・評価・改善の研修サイクルを組み込んで展開した。授業担当者としては，社会科授業の類型・特質・課題をより具体的に受講生に把握してもらうために，授業者本人による模擬授業を組み込みながら、具体的な社会科授業について論評し改善案を議論していくように展開を工夫をした。こうした取組の意義は，設問(3)の4.6、あるいは総合評価の4.4という評価に表れているものと考える。一方で，設問(5)の授業内容を進める早さについての評価において、受講生間にばらつきが生じたことを反省しなければならない。授業の進度や専門用語の使い方など、授業の内容と展開について、学生の立場にたった配慮と改善がさらに必要であると思う。

結果報告書

授業科目名　社会科教材開発演習Ⅰ（地理領域）
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　伊藤　直之　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



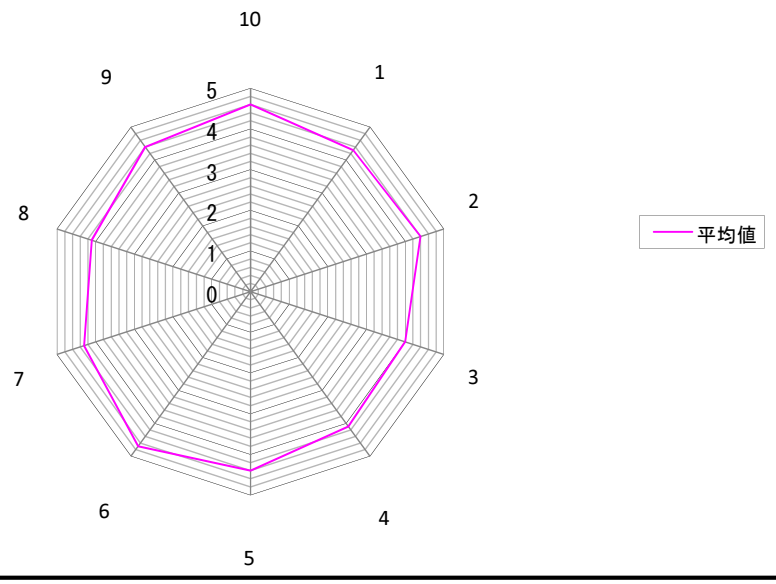
教員のコメント

正規の受講者はわずか2名であったが，教職大学院所属の現職院生2名も加わって，本演習は展開した。
受講者のニーズを鑑みながら，中学校社会科地理的分野の教科書，高等学校地理歴史科地理Bの教科書を対象に，その叙述はもとより，写真，グラフ，地図などからなる各種掲載資料を詳細に分析し，“その教科書のそのページで教えるべきこと”の明確化を図った。そして，その成果は，最終回において受講者による模擬授業および相互批評の機会を設けることによって，教材としての教科書分析から実践へと結実させた。
本アンケートへの回答数が少ないために，評価の値を鵜呑みにすることは差し控えるが，受講生が抱いていたであろう従来型の“教科書観”を脱却できたのではないかと考えている。

結果報告書

授業科目名　社会科教材開発演習Ⅱ（公民領域）
評価実施日　平成22年２月４日
担当教員名　西村　公孝　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	3	2				4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	6					4.4
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	8	1				4.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	5	2				4.1
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	4	6					4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7	3					4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	5	1				4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	5	2				4.1
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	1				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	4					4.6



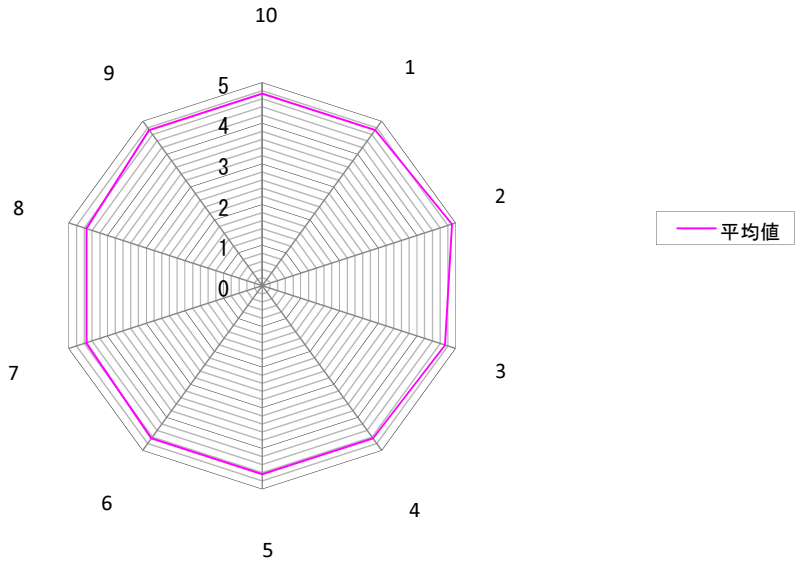
教員のコメント

社会科教材開発演習Ⅲ（公民領域）は、社会系コースの大学院生に小中高の公民領域の課題を演習形式でつかませ、それぞれの校種での教材開発を行う力量の形成を目指している。公民領域は政治、経済、国際関係、倫理に関連する広領域の社会諸科学を背景として内容が体系化されている。そこで、本年度の演習では昨年度の政治領域「民主主義の本質」理解のテキストを発展させ、経済領域のテキスト「民主主義はなぜ自壊したのか」（中谷巌、集英社インターナショナル）を取り上げ、演習形式で内容理解と討論を進めた。受講生は10人と少ないが、全員がテキストを担当しグローバル社会における資本主義のゆきづまりについて、欧米の文化思想を背景としたグローバル化の課題と日本経済の課題について討論を深めることができた。全体的に全ての項目で4.0以上の評価があり受講生の満足度は高いと言える。しかし、学部卒の院生がほとんどであり、資本主義に関する基礎的な知識・概念理解がない者も多々いるために「テキストが難しかった」「討論に積極的に加われなかった」など、大学院生の実態に合わせたテキストを選ぶ必要を感じている。また、小中高の公民教育の課題についても演習でとりあげたが、教材開発や教師の実践力向上の演習としては受講生の満足度が4.0になっており、演習における取り上げる教材内容を今後検討しなければならない。

結果報告書

授業科目名　数学科教育学演習
評価実施日　平成22年2月23日
担当教員名　齋藤　昇，秋田　美代　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	3					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1					4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3					4.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	2	1				4.6
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	8	2	1				4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7	4					4.6
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	6	5					4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	5					4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	3					4.7



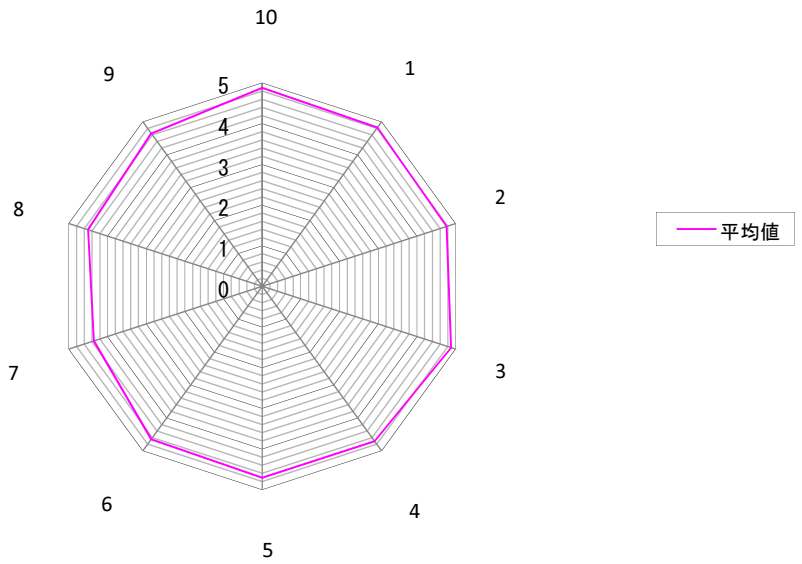
教員のコメント

この授業では，教員としての授業実践力を高めるため，算数科・数学科教育の原理，方法及び新学習指導要領の要点等について，ゼミナール形式で実施した。
この授業に対する受講者の評定平均値は4.7であった。特に「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」「教師の実践力の育成につながる内容であった」「授業に主体的・積極的に取り組んだ」という項目の評定平均値は，順に4.9，4.7，4.7で高い数値であった。この数値から受講者が，意欲をもって学習に取り組み，新たな知見を獲得し，授業実践力を高めたたことがうかがわれた。。11人の受講者のうち2名は留学生であったが，留学生はきわめて熱心であった。
次年度は，この授業結果をもとに，さらに改善を加え，受講者に役立つ授業を行う予定である。

結果報告書

授業科目名　数学科教材開発演習
評価実施日　平成22年2月10日
担当教員名　秋田　美代，齋藤　昇　　回答者数　18　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14	3				1	4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	2	1			1	4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	2				1	4.9
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	13	3	1			1	4.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	13	3	1			1	4.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	12	4	1			1	4.6
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	9	5	3			1	4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	4	2			2	4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	4	1			1	4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	15	2				1	4.9



教員のコメント

本授業の主な目標は，前期の「数学科教材開発研究」の授業内容を基盤として，生徒の思考力や創造力を育成する数学教材について探究し，数学科における教材の活用方法・開発方法についての理解を深めることである。

この授業に対する受講者の評価平均値は4.7，総合評価は4.9であった。評価平均値が高かった質問項目は「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」，「(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた」，「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」であり，評価平均値が低かった質問項目は「(7)教科書や配布された資料は，適切であった」，「(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった」であった。

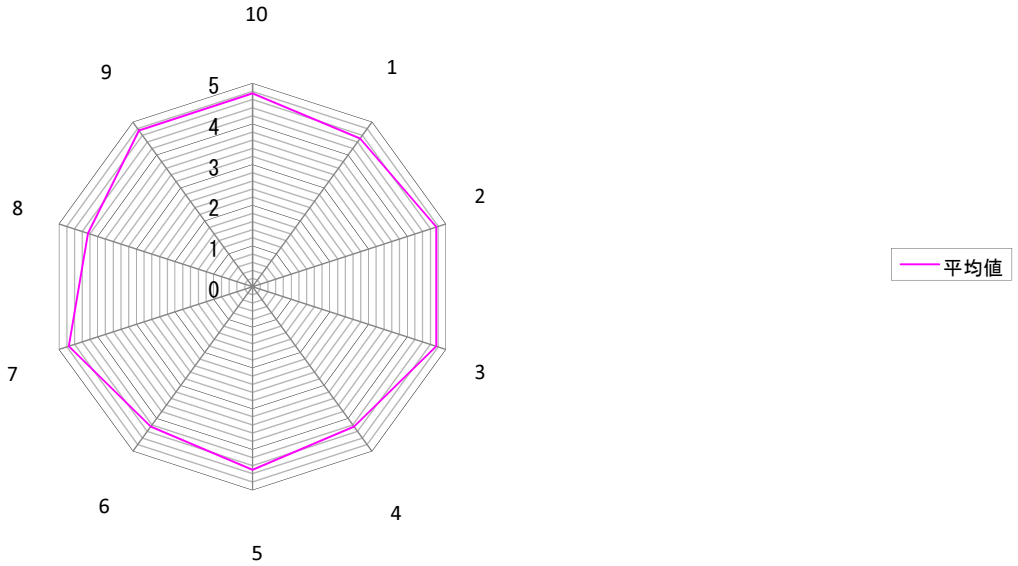
記述による回答では，「教材研究，教材開発，研究を続けて行くにあたってのキーワードが獲得できた」，「本質を見極め，目的を明確にすることの大切さ，オリジナルを考えることの楽しさ，苦しさ等体験できた」，「たくさんの教材又はその情報を知ることができ，研究を進めて行こうというきっかけを得た」，「それぞれの能力を向上させるため，教材・教具を開発・研究し，互いに能力を高めあっていける内容はよかった」等の内容が記載されていた。記載の内容から，受講者が，教材開発に対する認識を深め，教材開発能力を高めたことがうかがえた。

以上の各質問項目に対する評価，及び記述による回答から判断して，本授業の目的は概ね達成できたと判断できた。

結果報告書

授業科目名　音楽科授業研究
評価実施日　平成22年3月3日
担当教員名　西園　芳信　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1	1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	3					4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	3					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



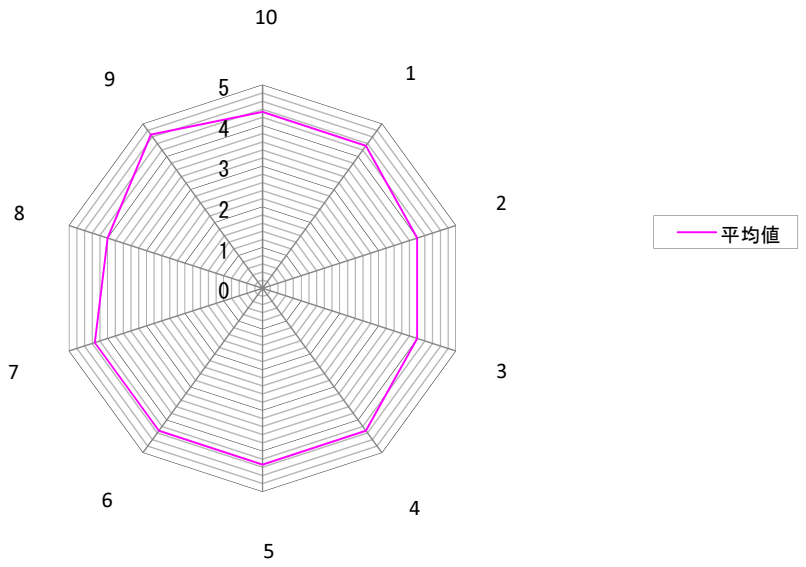
教員のコメント

本授業の目的は、教育思想とカリキュラム、音楽科カリキュラムの類型について理解した上で、我が国の小・中学校の音楽科学習指導要領を含め、アメリカやイギリス等の音楽科カリキュラムの事例について、歴史的背景、理論的背景、目的・目標、カリキュラム構成、指導内容と教材、指導方法と評価の観点から分析することによって、音楽科カリキュラムの構成方法とそれの授業実践として展開する方法を学ぶことを目的とする。そのための到達目標は、①教育思想とカリキュラムとの関連の理解、②音楽科カリキュラムの各タイプの理解、③学習指導要領に見る表現と鑑賞の指導内容の理解、④音楽科単元構成方法の理解である。授業評価をみると、9項目の平均値4．6となっている。そして、総合評価も平均値が4．8となっている。この授業評価から、この授業の目的は、達成できたと判断できる。また、授業の改善点についての学生の記述も特にない。

結果報告書

授業科目名　技術科教育演習
評価実施日　平成22年2月22日
担当教員名　尾崎　士郎　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	2					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1	1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	2					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	2					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1	1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2					4.3



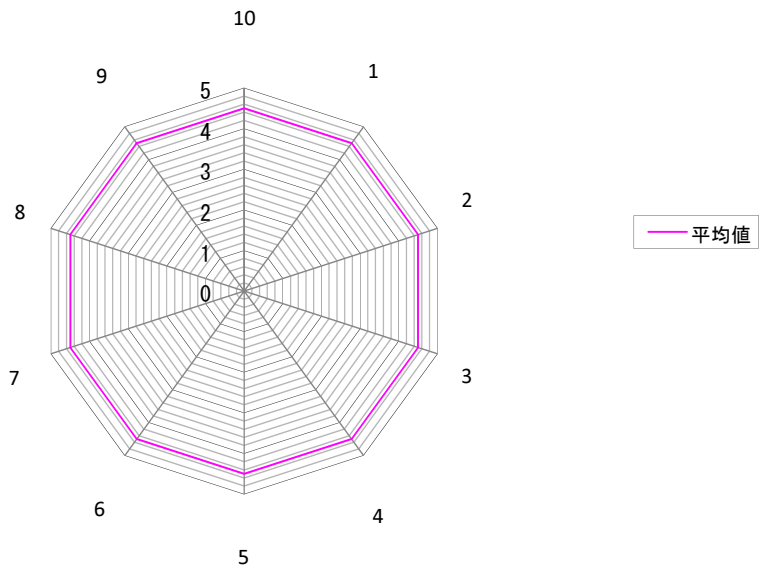
教員のコメント

授業評価の平均値が高いことは、予想外である。受講者は本学出身、学外からの進学者、外国人留学生で、すべての受講者の背景が異なっていたので、受講者の希望を聞き、特に今後、各受講者が研究を行うのに必要な考え方などに配慮しながら、演習の題材を入れ替えるなどして対応した。それが、高い評価に繋がったのではないかと考えられる。今回の方法で毎年成功する保証はないが、本学は少人数教育であるので、研究を遂行する力を向上させることを視野に入れながら、受講者の希望を叶える努力を行いたい。

結果報告書

授業科目名　家庭科授業・教材開発研究
評価実施日　平成22年2月19日
担当教員名　福井　典代，前田　英雄　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



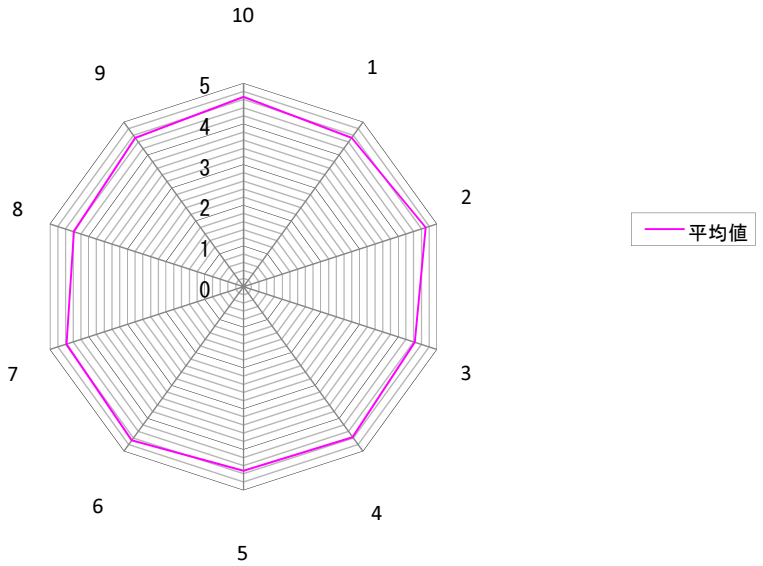
教員のコメント

授業には家庭教育コースの2名が受講し、その一人は現職教員であった。小学校や中学校での被服と食物の学習内容に関する講義をした後、実験実習を行った。少人数で各自実験実習に取り組んだためその内容の理解はできたことと思われるが、現場では授業時間数が少ないため生徒に教科書の内容を理解させるための時間が不足しており、実験実習まではとても余裕がないようである。今後、さらに受講生の受講の目的や家庭科教員になるにふさわしい知識と理解の度合いを考慮し、授業内容と方法をさらに改善･充実させていきたい。

結果報告書

授業科目名　学力形成と授業改善
評価実施日　平成22年2月10日
担当教員名　秋田　美代，茂木　俊伸　　回答者数　21　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	10					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15	6					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	10	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	15	4	1	1			4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	13	6	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	15	5	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	14	5	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	5	4				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	8	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	14	7					4.7



教員のコメント

本授業では，PISAを中心とした国内外の学力調査の結果やその背景を適切に読み取り，現代の「学力」問題を批判的に検討しながら，受講者個々の問題意識に沿って授業改善の方法・内容を探ることを主な目標とし，講義と演習活動をおこなった。

この授業に対する受講者の評価平均値は4.5，総合評価は4.7であった。評価平均値が高かった項目は項目(2)，項目(6)であり，評価平均値が比較的低かった項目は項目(3)，項目(8)であった。

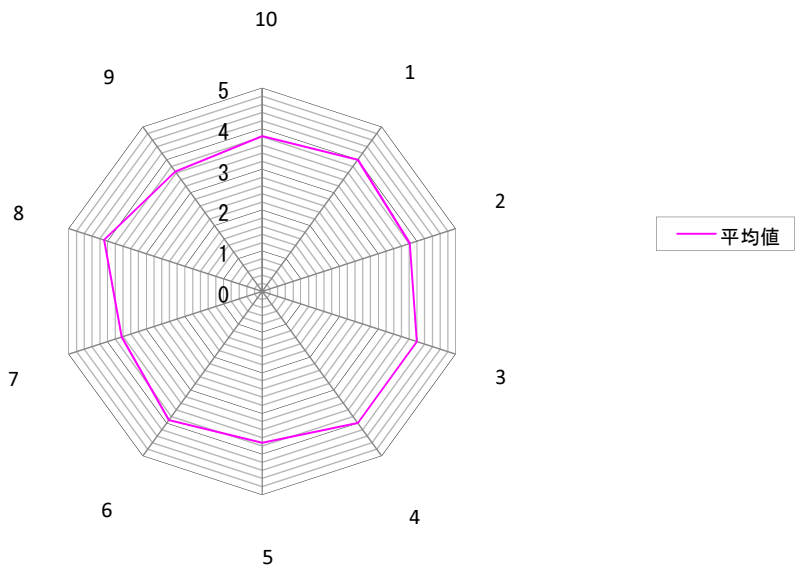
記述による回答では，「研究発表，個人レポートが課されることで，自ら積極的に，学習→勉強→研究するという活動が行えた。自分から動くことの大切さ(これこそが大学院でなすべきこと)が確認できた」，「授業担当の全ての教員が周到に準備した内容の濃い授業を展開した。PISA型の学力について，教科，領域，イデオロギーなどを超えて学び，考え，自己の課題を解決する方向を見出すことができた。また，その過程において，PISA型学力そのものへの視野が広がり，認識を深化・拡充できた」等の内容が記載されていた。記載の内容から，受講者が日本と諸外国の教育現状と課題を理解し，教員に求められる確かな学力観を身に付け，課題解決力を高めたことがうかがえた。

以上の各質問項目に対する評価及び記述による回答から判断して，本授業の目的は概ね達成できたと判断できた。また，昨年度の問題点を意識しながら授業を進めた結果，昨年度の評価平均値4.18，満足度4.06と比較しても，改善を果たせたと考えている。

結果報告書

授業科目名　子どもの規範意識の形成と授業経営
評価実施日　平成22年2月17日
担当教員名　伴　恒信，曽根　直人　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	5	3				4.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	5	1	2			3.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4	2	1			4.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	5	3				4.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	3	4	2	2			3.7
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	3	6		2			3.9
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	2	4	4	1			3.6
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	3	2	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	2	1	1		3.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	4	3	1			3.8



教員のコメント

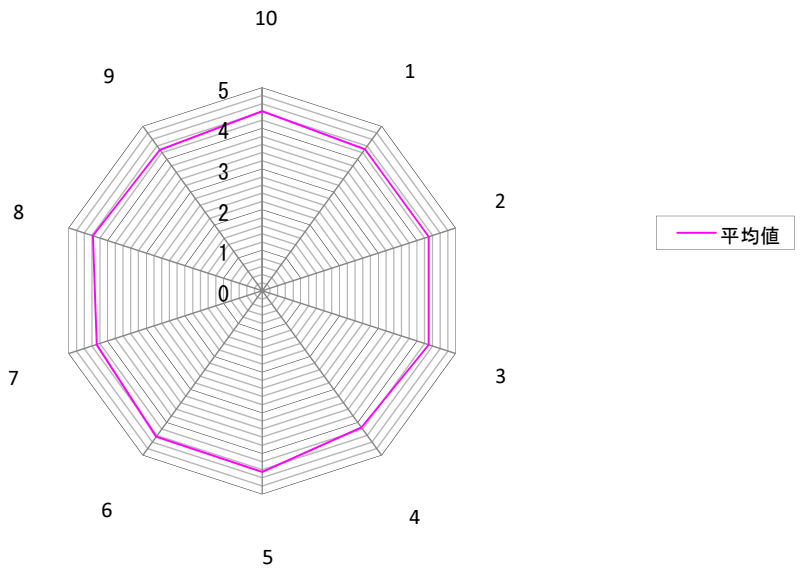
本講義の一つの特徴は、藍住町で民間ボランティア団体と学校とが連携して実施している総合学習に現地で子ども達とともに参加したり、その担当に当たっているボランティア側代表者に外部講師として話に来てもらうことである。学生が授業で良かったという感想もこのことに集中しており、「実地に赴いて子どもと接することは、受講者にとって得るものが多かったと思う。」「実際に、小学生の活動に入ることができたこと。」「正法寺川を守る会のお話を聞くことができた。」などの感想が寄せられるとともに、改善すべき点としても、「事前に小学校の先生と打ち合わせができていれば、もっとサポートが上手くいけたと思う。」とか、「実際のフィールドワークに入る前に、準備をもっとする時間があれば、フィールドワークもさらに発展したものになったかもしれない。」と準備段階でのより積極的関与の必要性の指摘がなされていた。フィールドワークへの参加を必須としていたにもかかわらず、参加しないばかりか授業もさぼりがちな学生が、最後に単位取得を懇願し、おそらく全てに悪い授業評価をしているようであるが、こうした者の授業評価が意味あるのか疑問に思う。

この授業では，グループでの討議や意見の整理にマインドマップなどを用いて工夫をしたが，受講者からの感想では特に取り上げられていなかった。主体的，積極的に取り組んだ項目が低い学生がいるが，関心を持って取り組みが行えるように工夫を続けたい。

結果報告書

授業科目名　現代社会と情報・思考・コミュニケーション
評価実施日　平成22年2月17日
担当教員名　原　卓志，兼重　昇　　回答者数　53　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	27	17	7	2			4.3
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	18	8	1			4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	29	12	11	1			4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	22	18	12	1			4.2
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	30	18	4	1			4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	32	14	5	2			4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	25	19	8	1			4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	29	16	7	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	23	23	6	1			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	29	18	5	1			4.4



教員のコメント

想定外の事情から、シラバスに記載された4名の担当者のうち、2名が担当できないことになった。初回のオリエンテーションで、謝罪とともに事情説明を行い、理解を求めたが、なお「シラバス通りに進めてほしい」「シラバスを見て受講するのであるから、欠けた部分は同じ分野の他の先生に補っていただくとかして欲しかった」などの厳しいコメントが寄せられた。

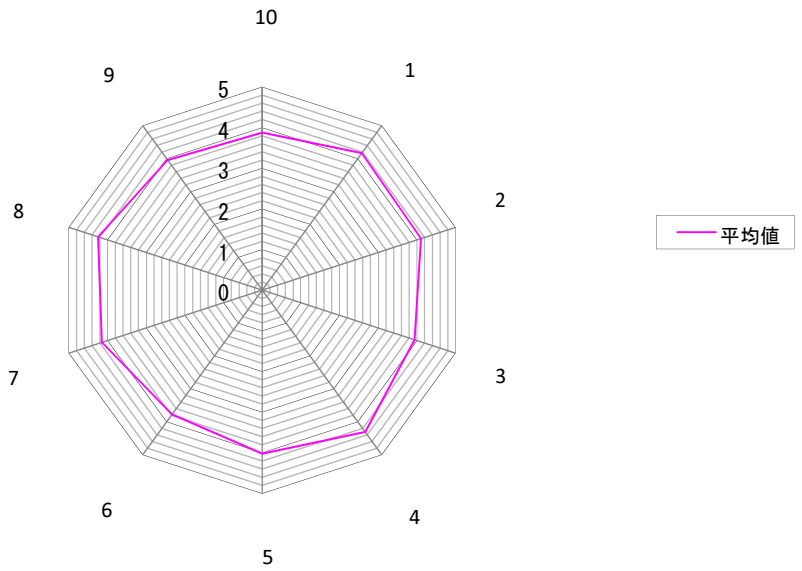
授業内容・進め方・総合評価では、総じて好評であると判断できる。良かった点として「2人の先生が、学生にわかるよう熱心に、また、アイディアいっぱいの楽しい授業をしてくださり良かった」「言葉とかコミュニケーションって何だろうと、真剣に考えたこと。言葉の働きを考えたこと」「楽しく、かつ、実践的に授業が行われる点」「グループ討議やノートを使ったチャットなど、様々な活動が用意されており、楽しく授業に臨むことができた。テーマも、まさしく今を象徴したもので良かったと思う」などがあった。

反省すべき点は「方向性が全く見えない。どこがゴールなんですか？　どんな力を付けて欲しかったんですか？」というような感想を抱いている受講生を授業中にキャッチし、救い上げることができなかったことである。大人数での授業では難しいことかも知れないが、工夫と努力を重ねていきたい。

結果報告書

授業科目名　環境科学と人間教育―地域からの省察―
評価実施日　平成22年2月23日
担当教員名　近森　憲助，西村　宏　　回答者数　48　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	22	16	7	2	1		4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	18	7	1	2		4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	16	18	11	1	2		3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	24	16	7	1			4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	16	21	7	4			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	21	11	4	1		3.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	22	16	6	3	1		4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	23	16	8		1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	18	11	2	1		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16	17	11	1	3		3.9



教員のコメント

総合評価が3.9で，それほど高くもないが，専門科目と違って，同一時間帯で開講されている3科目のうちどれかを選択しなければならないことと，同時開講科目のうちの1科目は受講希望者の人数制限を設けていて，抽選に漏れたためその科目を受講できずに，この科目を受けざるを得ない院生がいて，不本意ながら本科目を受講する途しか残されていなかったことによる効果（歪み）が，この評価点に表われていると言える。いわばこの結果は必然的なものかもしれない。

このことを反映するかのように，自由記述欄には，非常に好意的で前向きに勉強に向かう記述と，非常にネガティブな記述の両極端があった。それぞれの一例を挙げると，

○大変興味深い話題が多く面白いと感じる授業でした。
○環境教育を行う上での重要な観点についてわかることができた。

などが挙げられる一方で，

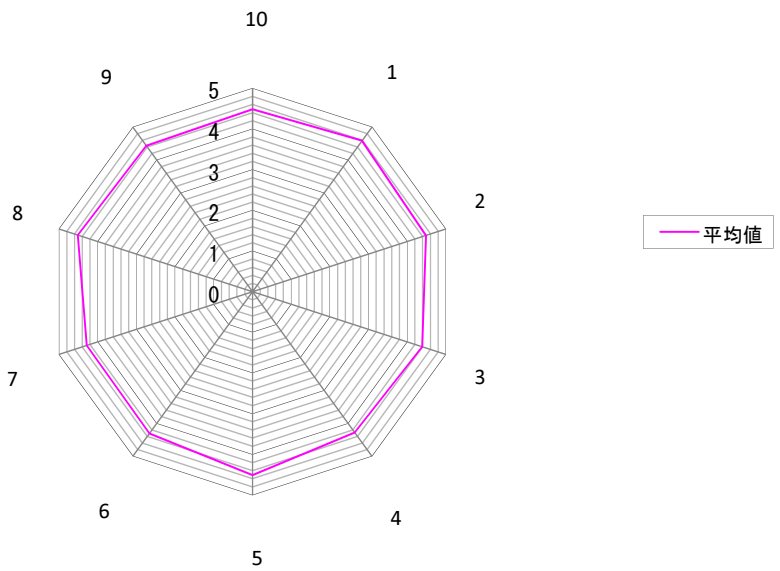
○専門的すぎてわからない授業があった。
○科学的で難しかった。

なども見られ，ある意味でのこのタイプの授業を展開する際の難しさが露わになったとともに，少なくとも興味を持たずに仕方なく選択している院生がいる実状もはっきりした。

結果報告書

授業科目名　グローバル時代の文化，人間，そして教育
評価実施日　平成22年2月23日
担当教員名　太田　直也，小西　正雄　　回答者数　39　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	25	12	2				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	27	6	5		1		4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	21	13	4	1			4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	20	11	7	1			4.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	23	13	3				4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	20	12	6	1			4.3
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	19	13	6	1			4.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	26	8	4	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	23	10	6				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	23	13	2	1			4.5



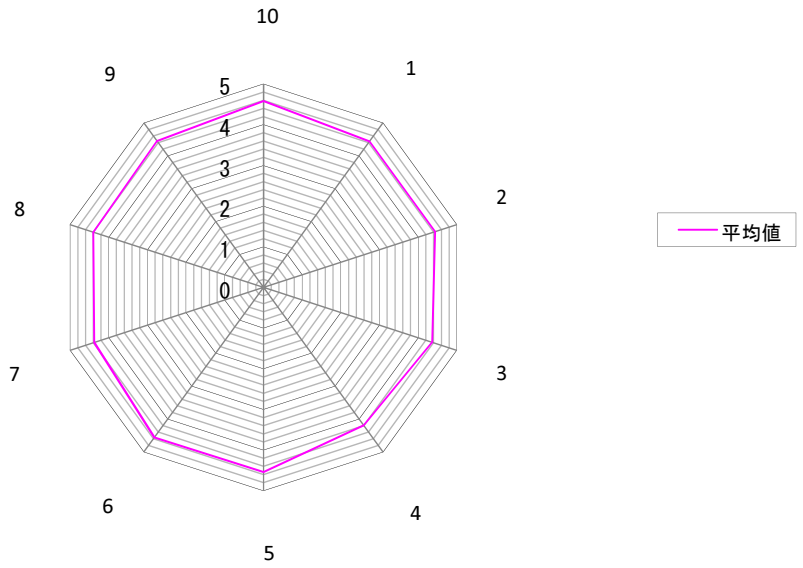
教員のコメント

授業前半は様々な文化論の変遷を追い、後半ではさらに教育あるいはさらに現実的に学校現場を念頭に置いて現代文化を論じた。時として難解な文化論に戸惑いを感じているかに見えた受講生も見受けられたが、総じて良好な評価を得たことに満足している。わずかばかりの低評価も見受けられるが、教室にいるだけの受講生の授業評価に意味があるとは思えない。

結果報告書

授業科目名　教師のための声とからだとことば
評価実施日　平成22年2月16日
担当教員名　頃安　利秀，綿引　勝美，余郷　裕次　　回答者数　70　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	35	29	5			1	4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	37	25	7			1	4.4
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	38	19	11	1		1	4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	28	28	11	2		1	4.2
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	42	22	5			1	4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	45	18	6			1	4.6
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	37	21	11			1	4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	38	19	11			2	4.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	39	22	8			1	4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	46	17	6			1	4.6



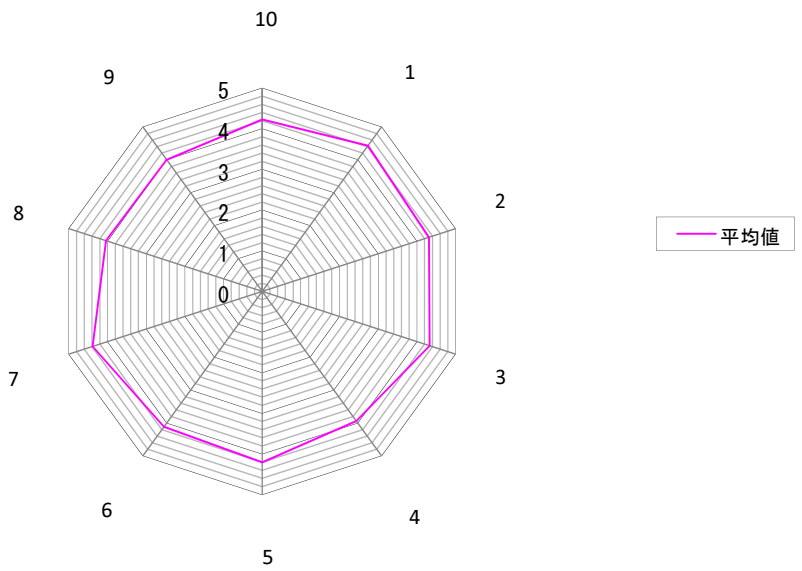
教員のコメント

履修登録75名（授業評価回収70名）の授業として、総合評価の平均値4．6は、この授業が成功したものと捉えることができよう。
また、3名の教員によるリレー式の授業の評価としても、まずまずの高評価と考える。
受講生コメントとして、「3つ（声・からだ・ことば）は、どれもが互いに関係し合っているということがわかりました。」「体を動かす、声を出すなど、教師にとっての基本となることが学べてよかったと思う。」「3人の先生方の特徴が出ていると共に、大変参考になる知識・考え方も頂けました。本当に夢中になって授業に参加できました。」のように、受講生自身が講義内容を関連づけ、総括しているものが多く見られた。しかし、先のコメントと矛盾するようではあるが、「三人の先生の連携・つながりをもっと明確にしてほしい。（それぞれの先生方の講義は良かったと思うが、どうつながってくるのかということがよく分からなかったので。）」のような、「声」の授業と「からだ」の授業と「ことば」の授業の関連性を明確にして欲しいとの要望が、2名の受講生からあった。この点は、今後の課題として、担当者3名で検討していきたい。
今後も、「通年で受講したい。」「必修にして欲しい。」といった受講生の思いを裏切らないような授業を心がけていきたい。

結果報告書

授業科目名　学校危機管理研究
評価実施日　平成22年2月10日
担当教員名　大西　宏，阪根　健二　　回答者数　70　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	39	22	9				4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	39	20	7	2	2		4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	38	21	7	4			4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	23	27	15	3	2		3.9
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	33	25	7	3	2		4.2
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	27	32	4	6	1		4.1
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	40	23	2	4	1		4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	25	30	10	3	2		4.0
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	27	23	15	3	2		4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	35	25	4	3	3		4.2



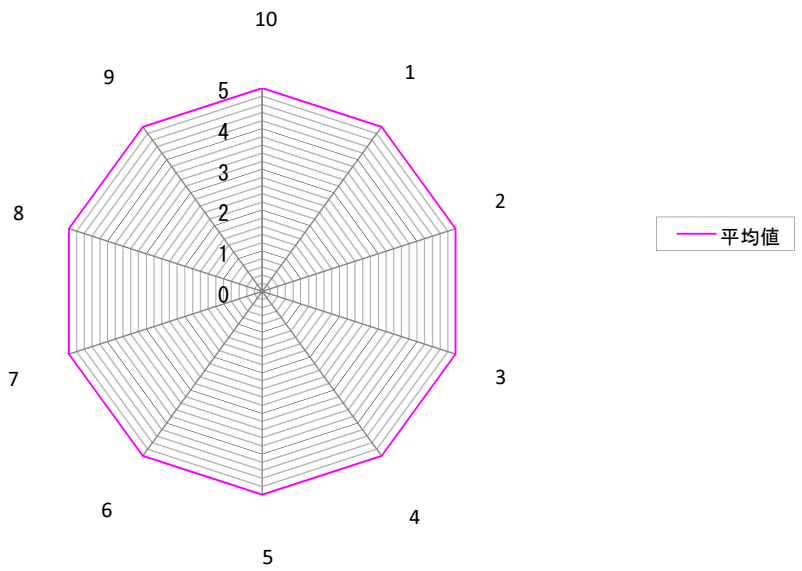
教員のコメント

現場の実際の危機管理の実態を提示し、実践と知見の融合を目指した授業展開を行った。この授業では全学FDの公開授業に選ばれたため、一部内容の変更を行ったことで、やや系統性を欠いたことが課題となったが、概ね院生の評価は高いものといえよう。ただ、授業評価にあたって、系統性を欠いたことが到達目標のぶれを生じさせたこともあり、この点に反省材料がある。なお、担当教員は共に教育現場出身であり、教員を志望しない臨床心理士養成コースの院生にとっては、視点が一方向に偏った可能性もあって、やや不満が残ったのではないかと推測している。（受講者の半数程度が同コースであった。）しかし、教育現場を認知しているというアドバンティジが本学の特徴であり、この点では仮に厳しい評価があったとしても、変えるべきものとは思っていない。

結果報告書

授業科目名　学級学校経営演習Ⅰ
評価実施日　平成22年2月12日
担当教員名　久我　直人　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



教員のコメント

学級経営にかかる「学級がうまく機能しなくなった（いわゆる学級崩壊）事例等をもとに，授業を進めた。
その際，院生自身の疑問や課題意識を引き出しながら，応答的な議論を展開した。
そのことによって，事例の検討から身につけるべき実践的知識の具体や，子どもの見方，とらえ方といった実践的思考様式の習得を促した。
院生自身も，積極的に参加し，内実を深めることにつながり，高い評価につながったと分析する。
もう一点，重要な工夫を行ったのは，現職院生にその議論に参加してもらったことである。
この現職院生の参加により，現場の先生方の生の声を知ることができ，受講者にとっては内実を深める契機となったとらえる。
現職院生にとっても，内実が得られ，ストレートマスター世代の認識の特徴等もとらえることができたということである。